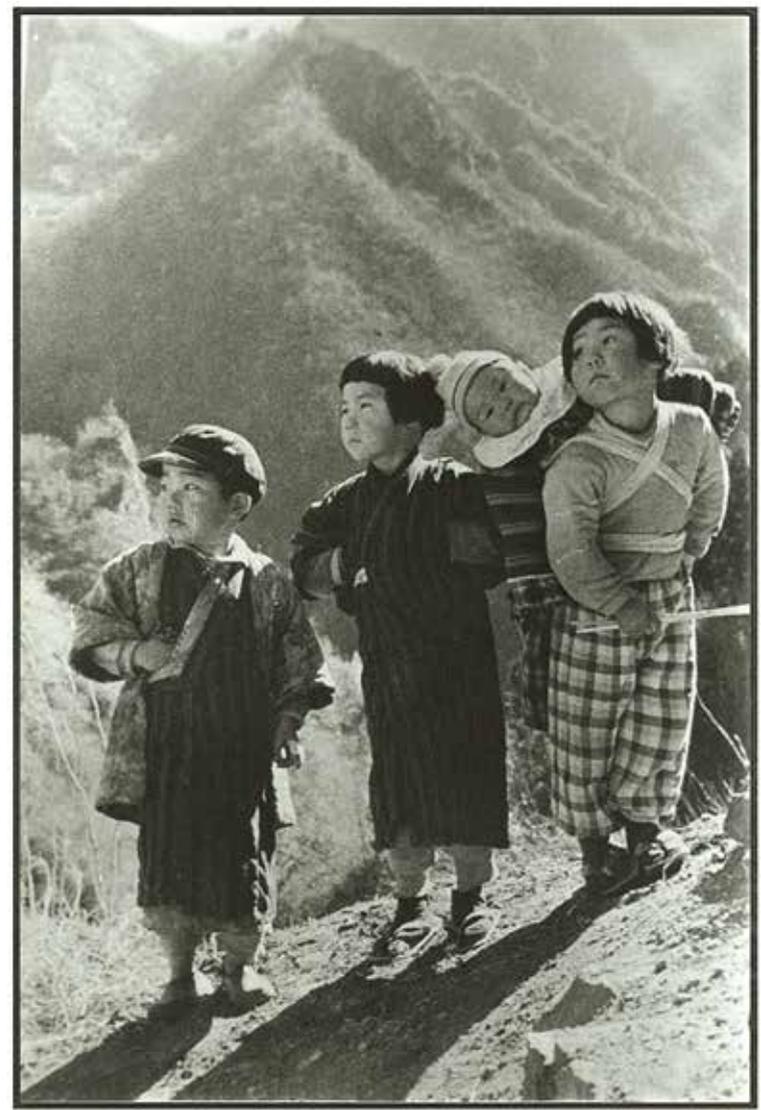


# くまがわ春秋

## 学校が消える

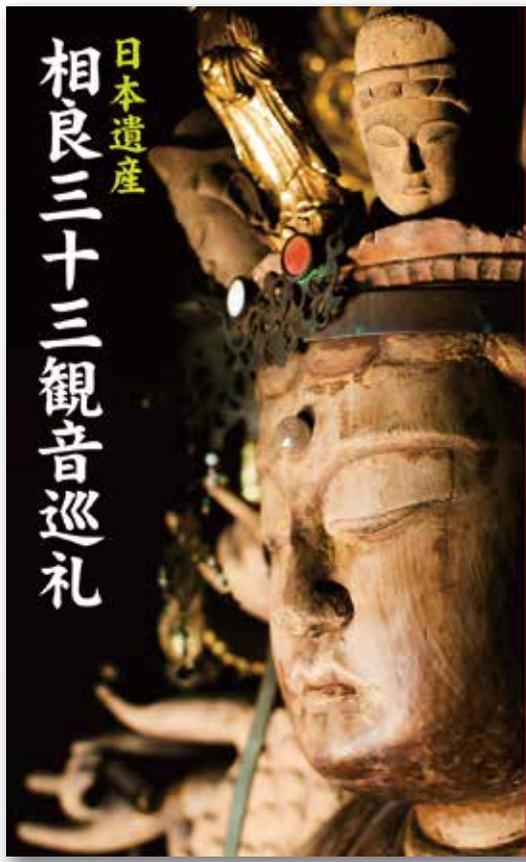


「お見送り」撮影／ 麦島 勝 八代郡泉村（現八代市泉町）子別峠で昭和25年3月11日（八代市立博物館未来の森ミュージアム所蔵）

## また、巡礼の旅に出よう。

相良三十三観音と人吉球磨の「日本遺産」を熱く語った  
ずしりと重いガイドブック

岐部明廣 撮影／ 瀧田喜幸  
人吉中央出版社



日本遺産  
相良三十三観音巡礼

■A5判／並製本／424頁／オールカラー  
■定価 2,000円(+税) 送料 200円

人吉球磨の書店  
外山胃腸病院で取扱い中。  
Amazonでも購入できます。

目次	
第1章	観音さまベストテン巡礼
第2章	古典的江戸時代コース巡礼
第3章	ぶらり旅巡礼
第4章	健脚高齢者コース巡礼
第5章	健脚若者コース巡礼
第6章	奥球磨コース巡礼
第7章	千手観音巡礼
第8章	十一面観音巡礼
第9章	如意輪観音巡礼
第10章	隠れ念仏巡礼
第11章	御詠歌ベストシックス巡礼
第12章	伝説を楽しむ巡礼
第13章	墓から歴史を楽しむ巡礼
第14章	脇役を楽しむ巡礼
第15章	山頭火と巡礼
第16章	神社廻りと巡礼
第17章	夏目友人帳聖地巡礼
第18章	お彼岸でない日の巡礼
第19章	「須恵村の女たち」を楽しむ巡礼
第20章	人吉温泉と巡礼
第21章	国指定重要文化財を楽しむ巡礼
第22章	球磨川・川辺川を楽しむ巡礼
第23章	隠れキリシタン巡礼
―巻末付録―	
・	相良三十三観音霊場一覽
・	相良三十三観音巡礼地図

発行元 〒868-0015 熊本県人吉市下城本町 1436-4 の3号 人吉中央出版社  
TEL・FAX0966-23-3759 info@hitoyoshi.co.jp

月刊 くまがわ春秋 第36号 2019年3月15日発行  
企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社  
〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号  
TEL 0966-23-3759 / FAX 0966-23-3759  
http://www.hitoyoshi.co.jp/ info@hitoyoshi.co.jp

定価 540円 本体 500円

雑誌 81779-03-9



4910817790390  
00500

# 最近のおもな出来事

- 【開催中】
- ▽「人吉球磨は、ひなまつり」(3月24日、郡市一帯) 2月16日(土)
  - ▽第23回人吉ふれあい100円商店街(人吉市中心市街地) 2月17日(日)
  - ▽第16回ひとよし温泉春風マラソン(メイン会場：ふるさと歴史の広場) 2月23日(土)
  - ▽2018年、多喜二百(百)年「学び語る」早春文化の集い(中小企業大学校人吉校)
  - ▽多喜ひす植木市(3月3日、多良木町えびす広場) 2月24日(日)
  - ▽第45回人吉梅まつり(人吉市大畑梅園) 3月22日(土)
  - ▽多良木高校閉校式(同校体育館) 3月3日(日)
  - ▽人吉よさこい祭り(人吉市市街地)
  - ▽ひなまつりイベント「よさこい着物からり歩き」(人吉市市内中心部) 3月9日(土)
  - ▽人吉・球磨山頭火の会市民講座「山頭火の映像を見て、そして語る」(人吉市東西「ミセン」) 3月10日(日)
  - ▽青井稻荷神社「初午大祭」(人吉市上青井町)

## 3月(第36号) 目次

- 巻頭言「中山間地農業と暮らし」三原竹二…2
- 「湯前線」永江友二…10
- 柳人があじわう漱石俳句③⑥ いわさぎ楊子…17
- 「一億総活躍社会・男女共同参画」大草知子…18
- くまがわの神さん仏さん③① 宮原信晃…22
- 記憶の落ち穂③⑤ 坂本福治…25
- 「川とともに生きるひとびと」土肥勲嗣…26
- 建築みてある記③①「古田阿蘇神社」森山 学…29
- 「あがつ段」③③ 上杉芳野…34
- 「ダムカード」補論① 上村雄一…36
- おっとわつとあすびその②⑥ 松舟博満…39
- 「大・八代」をつくる…40

## 特集・学校が消える

- 多良木高校で閉校式…3
- ・平和・勤労・進取 桑原満璃…4
- ・選ぶことの重大さ 坂本ケイ…7
- ・多良木高校という名のきみへ 宮原信晃…8

## 「奥田モモエさんを悼む」田中一彦…12

今月の一言  
『文読む月日』(レフ・トルストイ編著 北御門二郎訳)より  
失うべき何物も持たない人こそ、最も富める人である。  
(中国の諺)

### 表紙写真

### 麦島勝さんの「お見送り」



旧八代郡泉村(現八代市泉町)こべつ峠で昭和25年(1950)3月11日に撮られた枚。  
※作品解説「お父さんが町に仕事に行きました。淋しいけれど、私たち仲良く待っているからね。お父さんやおじいさんが兵隊さんに行くときも、こべつ峠を通りました。」  
(八代市立博物館未来の森ミュージアム所蔵)

- 砂時計―思い出るままに⑤ 小野武己…44
- 漢和字典は面白い①⑨ 鶴上寛治…47
- 「友恵屋」上村雄一…48
- もう一つの「明治維新」② 富永和信…50
- 倉敷便り②⑦ 原田正史…52
- 外来語から学ぶ英単語③⑥ 藤原 宏…55
- ひろし：げっかん・ぎひょう…55
- 字図で見る球磨の地名②⑥ 上村重次…56
- 小説・相良清兵衛①⑤ 山口啓二…58
- 「打撃の神様からの贈り物」前田康江…62
- お休みどころ通信⑤ 興野康也…64
- 方言を味わう③② 前田一洋…66
- 那須良輔と北御門二郎③ 村木正則…68
- 鶺鴒短歌会 二月詠草…71
- 前号【くまがわ学習塾②の答え】…72
- Facebook 華文俳句社③…73
- 小山勝清論ノート「勝清鳥」…74
- いもご短歌会…76
- くまがわ学習塾⑦…77
- 人吉市で山頭火の勉強会…78
- 「くまがわ狂句」村上鬼拳…79



### 本誌の取扱店舗

- 清藤書店 ■ブックスミスミ ■明屋書店 (錦店・免田店・多良木駅店)
- 道の駅さかもと ■TSUTAYA 八代松江店

# 学校が消える



多くの卒業生が参加した閉校式

## 97年の歴史に幕 多良木高校で閉校式

高校再編に伴う県立多良木高校の閉校式が3月2日、最後の卒業生、職員、同窓生、地域住民約960人で埋め尽くされた体育館で行われ、97年の歴史に

幕を閉じた。

栗谷雅之校長は「ここは1万9000人余りの若人たちの青春のふるさと。いつの日か再びよみがえることを切に願う」と挨拶。住吉献太郎同窓会会長は「卒業生が各地で素晴らしい足跡を残している。その人材を育て上げた根底にあったのは、『平和・勤労・進取』という多良木高校の校訓の精神だと思っている」と話した。

高校再編では「上球磨に高校を残そう」と住民運動が展開され、約3万筆の署名、白紙撤回を求めた県民集会や街頭行進などさ

まざまな動きがあったが、かなわなかった。

校旗収納では、出席者全員で昭和3年以来、歌い継がれてきた校歌を大合唱。多くの人が涙をこぼしていた。

### 球磨商高校・南稜高では 旗納め閉校式

高校再編により今年度で閉校する球磨商業高校と南稜高校では3月1日、卒業式のとに閉校式が行われた。最後の卒業生のほか、それぞれの跡地を引き継ぐ球磨中央高校、新たな南稜高校の生徒も出席し、地域と共に歩んできた高校の軌跡を振り返り、球磨商高は47年、南稜高は116年の歴史に幕を下ろした。

### 中山間地農業と暮らしの条件づくり

私は中山間地と呼ばれるところで暮らしています。中山間地域は主に農業を主とし、耕地が狭く、市場から遠い不利な条件があります。十年前の古い数字ですが、国土の七割を占める中山間地は農業生産の約四割を担い、国土や環境の保全に重要な役割を果たし、農用地の水源涵養の機能は、年間十二兆円ともいわれました。これは農業生産を通じて評価されたのですが、その後は耕作放棄地や農業集落地の消滅が中山間地から始まり、生産基盤の崩壊を招いています。

「企業が活躍できる国づくり」の政策から、都会への人口集中が中山間地の農家の労働力減少を引き起こしました。平坦地の農業規模拡大の声も小さくなり、貿易の自由化は、政府がアジア・ヨーロッパ圏内と協定を結び、残るアメリカを相手に交渉中で、際限のない自由化が進められています。

二〇一八年の農林水産物の輸出額は九〇六八億円でした。対して輸入額は、九兆六六六億円で、十倍もの量です。欧米諸国は、自給率を維持または向上しています。これは輸入規制や国内の生産者が再生産できる価格補償と所得補償の充実があるからです。カロリーベースの自給率が三八%に落ち込んだ私たちの国は、欧米並みに「家族農業を支えて、農村で暮らし続けられる条件づくり」が今日的課題です。

(三原竹二)

### 巻頭言

【おとわり】印刷用紙の高騰、送料の値上げによる発行経費の削減のため、今月号より約1割ページ数を減らすことになりました。今後は掲載内容を吟味し、より質の高い雑誌づくりを目指してまいりますので、なにとぞご理解の程、お願い申し上げます。

# さよなら母校

## 多良木高の思い出

## 平和・勤労・進取

昭和26年卒 桑原（旧姓・東）満璃

大正11年4月、多良木村他八ヶ村学校組合立多良木実科高等学校として創立された多良木高校の97年の歴史と、卒業生の思い出を振り返ってみる。



昭和6年頃の旧校舎（高田素次編著『多良木高校五十年史』より）



昭和19年〜20年、我が国は激戦時代で女学校受験も校区制となり、上球磨には多良木女学校と決まった。私は湯前町出身で、友達4名は不合格がいたと記憶している。昭和20年4月、多良木高女一年生として入学したが、5月から各地区毎に分散して農家で奉仕作業。田植え・稲刈り・田の草とり、その他、湯前のダム作りをした。土を掘ってトロッコで運ぶ作業など、慣れない仕事は辛かったり、楽しかったりの日々であった。

3ヶ月後の昭和20年8月15日、球磨農学生と一緒に湯前の山地で穴掘り作業中、恒松良一郎先生（元県議・元多良木町長）より、「作業止め。日本は戦に敗れた」と涙声で叫ばれた。私たちは驚きと哀しさで、持っていたスコップを投げつけた。上級生を先頭に私の班10名が田んぼの畦道を帰る途中、市房山の方からB29が次々と現れて、真夏の暑い上空よりキラキラ光る紙片が雪のように落ちてきた。拾うのも恐れたが、後日宣伝ビラと知り驚いた。帰途に就くと我が家では隣り近所の方々がラジオ放送を聞きに来ておられ、すすり泣く姿が今なお思い出される。

と現れて、真夏の暑い上空よりキラキラ光る紙片が雪のように落ちてきた。拾うのも恐れたが、後日宣伝ビラと知り驚いた。帰途に就くと我が家では隣り近所の方々がラジオ放送を聞きに来ておられ、すすり泣く姿が今なお思い出される。

終戦となり9月より、登校授業が再開され、湯前駅よ

り貨車に乗って通学した。3年生までは女学校、昭和23年の学制改革により卒業は、併設中学卒業となった。引き続き多良木高校一年生で入学。4年間の予定が6年間在籍することになった。同級生100名中62名が残って入学し、毎日充実した学生生活を過ごしたことが、今の私の大きな支えとなっている。これも恩師の田代正勝先生、

### ■多良木高校の沿革

- 大正11年4月 多良木他8ヶ村学校組合立多良木実科高等学校設置認可
- 大正11年5月 創立記念式典挙行
- 昭和3年1月 多良木町上迫田に新校舎落成
- 昭和6年4月 熊本県立多良木実科高等学校となる
- 昭和26年4月 熊本県立多良木高等学校と改称
- 昭和29年4月 全日制家庭科設置
- 昭和38年4月 家庭科を家政科と改称
- 昭和41年7月 新校舎建築着工
- 昭和43年7月 同町中原田の新校舎へ移転
- 昭和47年4月 水上分校開校
- 昭和47年10月 創立50周年記念式典
- 平成2年3月 水上分校閉校
- 平成3年4月 普通科体育コース設置
- 平成4年4月 創立70周年記念式典

### 平成6年4月 普通科福祉教養コース設置

- 平成6年4月 普通科福祉教養コース設置
- 平成6年8月 第二体育館落成式
- 平成7年10月 セミナーハウス「木綿葉」落成
- 平成12年4月 県高校生等保育・介護体験総合推進事業文部省指定
- 平成14年11月 創立80周年記念式典
- 平成15年3月 野球場防球ネット新設工事
- 平成17年5月 「高等学校体育・スポーツ推進校」熊本県指定（〜平成18年度）
- 平成20年4月 「県立学校等人權教育ブロック別研究協力校」熊本県指定校
- 平成23年3月 教室棟、理科棟、耐震補強工事
- 平成24年10月 創立90周年記念式典
- 平成29年 球磨郡の3校再編・統合のため生徒募集停止
- 平成31年3月 閉校

深水彦馬先生方のご指導と感謝している。

小中学生の修学旅行もない時代であるが、3年生の時、初めての京都への修学旅行が実現した。この喜びは86歳になった今でも友達との交流、食事会ごとに楽しく語り合う思い出話である。

多高出身を誇りとしていた矢先、とうとう閉校となり、友達と閉校式に出席した。「平和・勤労・進取」の素晴らしい校訓、一生忘れないでしょう。「回らす山の広げき平野」と犬童球溪先生の作詞の校歌を合唱し、思い出多き母校、97年の歴史、1万9千人が愛した母校との別れ。

高校へ入学して間もなく母との死別。父が保護者会副会長として、寂しい私を育てくれたことも、親として当たり前のことでしょうか、とても有り難く、感謝しています。

最後の校旗収納には胸がじーんとして涙を流し、ありがとう、さようなら、多良木高校！

【くわはら・まり／高校第3回卒、錦町】

## 選ぶことの重大さ

昭和33年度卒 坂本(旧姓・加藤)ケイ

・選ぶことのはじまり

私たちの高校入試の頃は学区制があつて、人吉市以外の学校は人数の制限があり、希望通りの受験はできませんでした。多良木高校は合格発表の寸前に、学級増となり全員合格、胸をなでおろしました。

・ある音楽会のこと

大切なお客様を迎えることを仰せつかり、待っていますと、はじめて見る一台の乗用車が体育館の入口に横付けされました。今まで見たことのない立派すぎるご夫妻と、水色のワンピースを着た二人の少女とその家族でした。ご主人様はお医者さん、奥様は新庄先生(音楽)のお姉さんで、宮城道雄の一番のお弟子さんとのことでした。その時、深水彦馬先生の奥様が歌を披露されました。ふくよかな美人で、着物姿は印象深く今でも心に

### 多良木高校 校歌 (昭和3年制定)

作詞 犬童 球溪  
作曲 中村京二郎

- 一、回らす山の広げき平野  
汚れし塵は露だに訪わず  
我等がかさず旗手のもとに  
和める風ぞ静かに通う  
平和平和人生の幸福やがて  
茲に生れん
- 二、昼夜を措かず馳ゆく水の  
精神をくむや球磨の荒川  
力めてやまぬ汗の雫に  
若き力の光ぞ宿る  
勤労勤労人生の幸福やがて  
茲に生れん
- 三、望みは遠し雲居の峰の  
高き市房み空に仰ぎ  
日々に進みてやむ事知らぬ  
学の道を夢な後れそ  
進取進取人生の幸福やがて  
茲に生れん

残っています。

・たった一度の調理実習

中村先生だったと記憶していますが、いつも笑顔でやさしい声で授業をされました。忘れもしません、「サバの筑前煮」。甘辛くサバのパリツとした食感、私の好みでした。

・選ぶこと (大きくハンドルを切る)

松崎校長先生が福岡の女子大をすすめて下さいました。ちょうどその頃、姉が長崎の学校にいました。母は、「二ヶ所にお金を送るのは大変だ」と言ったので、長崎に決めました。

・振り返ってみると

選ぶことの重大さ、それは私の運命だったのか、宿命とも言えるような思いです。高校での学びは、私の歩んできた人生の大きな土台となっていることに感謝します。

閉校式で、校旗がたたまれる瞬間、「終わり」を感じ、涙がこぼれました。

ありがとうございました。

【さかもと・けい／人吉市】

# 多良木高校という名のきみへ

昭和47年度卒 宮原信晃

理不尽な信じがたい事態が起きた。我が母校が無くなるというのだ。直ぐに多良木高校同窓会が頻繁に動き出す。



「上球磨に高校を残そう」といろんな活動に着手したが、12年目の春3月2日に閉校式が執り行われた。体育館に650名を超す卒業生たちが詰めかけたが、悲しみ悔しさを押しして全員で閉校を見届けた。

昭和47年の秋、3年生の私は創立50周年記念式典に在校生として出席した。同級生の中村由美さんとお付き合い

を始め、卒業アルバムにも二人で並んで写った。私が在籍した2年後には田代、豊田君達が陸上競技で大活躍し、オレンジ旋風を起こした。後年その第2のオレンジ旋風が巻き起こり、くまもと国体・富山国体・くまもとインターハイで多良木高校は大活躍。その頃は自分の仕事(鍼灸院)はほったらかしで、大きな大会は全て多良木高校の陸上部に帯同した。スポーツカーは私にとって第2の青春と感じていた。

それからである。3つの高校を統合し2つにするという熊本県の方針が発表された。「球磨商」か「多良木」のどちらかが現実的に消えるのだ。

初めて多良木高校の上席同窓会に出席させて頂いたその翌日の夜には県庁から説明にこられて、閉校反対の火ぶたが切っておとされた。その後あいにく私の喘息が始まり高校の存続活動から遠ざかった。

今から2年前、あさぎり町の深田に古い江戸期のお地藏さんがあるとお地藏さん探索が趣味の友人が教えてくれて、ある墓所へ足が向いた。

「な、なんと」、半年前に大事件が起こっていた。高校生の自殺である。

その高校生のお墓が私の目の前に建っていたのだ。足力が抜けてひざまずいた。「ごめんなさい」多良木高校の存続問題より君が亡くなったことの方が大事だった。ごめんなさい。

その数日後郷土史家の前田一洋先生にその話をした。すると先生は「それは大変な問題です。私達教師が、学校が、日本中の教育が、逃げろという事を教えなかつた。何を差し置いても



同窓生や地域の人も参加した閉校式にて

自分の命を守ることが最優先。責任感や立場など、そんな事はどうでも良いのですよ。その場から逃げろ、ということをおつしやつた。

心が傷んだ。

多良木高校の閉校式へ参列した。昔からお世話になった先生方や同級生や先輩後輩の顔をみると、本当に最後の場に來たのだと思えた。

多良木高校という名のきみへ。

1万9千名もの生徒を見守ってくれた。太平洋戦争でかり出された女学生、病氣や所用で来られない卒業生、私の同級生は学校の帰りに自転車がダンプカーに巻きこまれて死亡した女子学生。閉校になる前に自ら命を絶つた生徒さんも、今、みんなの心がここに來ています。多良木高校は地域と共に、しっかりと全てを抱き留めてくれた。生も死も、一緒に考え苦労した多良木高校のきみへ。本当にご苦労さまでした。

【みやはら・のぶあき／人吉市】

# 湯前線

くま川鉄道株式会社取締役社長  
永江友二

大正13（1924）年、この球磨人吉に鉄道が敷かれた。今から100年近く前の事だ…。

鉄道が敷かれると、木材や主要産業に関わるものが大量輸送され、人々の移動手段ができ、鉄道によってこの



地は大きく発展した。

時代は変わり、車社会となり鉄道の存在価値は薄れ、この湯前線は国より赤字路線に認定され廃線を宣告された。しかし、沿線に通う高校生が数多くいる中で、通学生の大量輸送は鉄道に頼らざるを得ないと結論付けられ、



湯前線はJR（旧国鉄）より切り離され平成元年より人吉球磨の自治体と民間が運営する第三セクター「くま川鉄道株式会社」として生まれ変わった。

開業当時は通学生も多く、運営は特別厳しいものではなかったが、年々少子化が進み生徒数の減少が顕著に表れてきた。開業当時2000人も列車通学生（年間利用のべ100万人）がいたが、今では1000人を切り、半減してしまった。くま川鉄道の主要収入源は高校生の通学定期券であるの言うまでもなく、その定期券

くま川鉄道は今年で運行開始30年！

この記念すべき年をみんなで祝い、未来へ残そう！

告知…3月22～23日人吉温泉観光協会主催の観光列車サミットの開催に伴い、3月23～24日は「くま鉄まつり」を開催します。くま川鉄道では各駅前で開催される駅前マルシェに遊びにいらそうよう、2days1コイン乗車券を発売（大人500円、子供100円）23～24の二日間は何度乗っても、どこから乗っても、どこまで乗ってもフリーパスでご利用いただけます。詳しくはチラシをご覧くださいませ。



販売額が半減した今、年間7000～8000万円もの赤字が続いている状態である。今後、少子化に拍車がかかり利用者が大幅に減少していく中、赤字額は増えていき、最終的には廃線という事にもなりかねない。ただ、鉄道を廃止したまちの衰退は加速化し、地域の存続が危惧される。そうならないためにも、やはりどうにかこの土地に公共交通網であるくま川鉄道を残して行かなければならない。

鉄道の存続の危機はこのくま川鉄道に限らず、全国の3セク鉄道会社は同じ状況で、地元利用客の減少を埋めるため、各社で観光列車を競いあうように運行をはじめた。しかし、観光列車はある意味、箱物観光で、その厳しさは嫌と言うほど味わってきている。出来た当所は人が来るが、次に新しいものが出来ると人は新しいものへと流動していく。すなわち観光列車は一過性のものであり、一時的な収入増にはつながるが、減少や伸び悩みはどこも同じである。やはり、鉄道の存続には地元の住民が存続の意識を持って利用していくしかないのではないだろうかと思うようになった。

# エンブリー夫妻のお手伝いさん 歴史の生き証人・奥田モモエさんを悼む

田中一彦

市井の「歴史の生き証人」を、また一人失った。奥田モモエさん。訃報は、二〇一九年一月三十一日昼、熊本県あさぎり町の知人から飛び込んだ。その日午前三時ごろ、九十七歳の大往生である。

奥田さんは、戦前、熊本県須恵村（現あさぎり町）を調査したアメリカの人類学者ジョン・エンブリー夫妻をお手伝いだった女性だ。晩年は、生まれた同町須恵地区にある老人ホーム「木綿葉<sup>ゆづは</sup>」で静かな余生を送っていた。亡くなった四日前に体調を崩し、自宅近くの同町岡原の病院に入院されていたという。

私は、エンブリーについて調べようと、二〇一二年十月から一四年七月まであさぎり町に移住した。エンブリー夫妻が滞在した一九三六年当時の須恵がどう変化したか

知ること、そして現在の須恵の人たちから話を聞くのが目的だった。しかし、当時を知るお年寄りには数えるほどしかない。奥田さんがお手伝いだったことを知り、今も健在だということを聞いて胸が高鳴ったことを覚えている。須恵村で夫妻に最も身近に接した最後の人物なのだ。

その奥田さんに初めて会ったのは、二〇一二年一月二十四日のことである。足が悪く歩行がやや困難だが、耳もよく、少しの繰り返し以外、記憶もしっかりしている。町に住んでいる間に二度、町を離れた後にも二度、木綿葉の食堂で奥田さんに会い、エンブリー夫妻の思い出話をうかがった。エンブリー滞在から八十四年、そんな時間はもう持てない。エンブリーと直接会ったことが

あり、思い出を語ることができる証言者は、ほほいなくなつた。

◇ ◇  
奥田さんの旧姓は谷川。須恵村の阿蘇部落の生まれだ。結婚して奥田姓となつた。

エンブリーの妻エラは、十一月七日のフィールドノートに、「昨夜、メイドが見つかった」と、お手伝いが決まった様子をこう書き留めている。

「彼女は高等小学校を昨年卒業した、ぼつちやりして感じがいい十六歳の子で、頭が良く、みんなが推薦した」  
最初に見つかったこのお手伝いは奥田さんではなく、今村部落の恒松マサさんだった。エラによると、恒松さ



奥田さんと筆者

んは「外人の家の世話  
はあまりにも面倒である  
と決めて、手伝いを  
増やすように主張し  
た」という。二人目  
のお手伝いが、恒松  
さんと同級生の奥田

さんだった。ただし、二人は一九二二年生まれ、しかも高等小学校卒業後なので当時十四歳のはずだ。「十六歳」はエラの記憶違いと思われる。一九八五年にエラが三日の須恵村訪問を果たしたときの愛甲数男村長も同級生だったという。

「村長と担任の先生が二人で阿蘇のうちに来て、頼まれた。私は十人兄弟で、兄の次の長女だった。弟たちの子守りもあつたけど、仕方なかった。エンブリーさんはスパイとか、そんなことはなか。村の伝説を調べに来たんなつた」

奥田さんはお手伝いを引き受けた理由を、そう私に明かしてくれた。小学校時代の二人を覚えている女性に尋ねると、「二人とも成績優秀だった」という。恒松さんと二人三脚で夫妻に仕えたようだ。

ただ奥田さんは、「三、四カ月は子守りしていたと思う。後は覚井部落から来た」と話す。その言葉を、エンブリーが撮影した約千六百枚の写真のキャプションの212、213番が裏書きしていた。そこには、「Two maids, Hashiguci Hanae of OADE and Taniguchi? of

KAKUJ. February 1936」とあったのだ。写真を探すと、一九三六年二月、二人の若い女性の姿があり、時期も奥田さんの言う「三、四カ月」後にピッタリ一致する。後任のお手伝いが誰のことか、覚井の知人に尋ねると、上手部落に住んでいた「橋口花江」と覚井の「谷口ヒロコ」と確認できた。残念ながら、奥田さん、恒松さんの写真は残っていない。

奥田さんは自分の仕事を「子守り」という言い方をした。エラはその著『須恵村の女たち』で「mad (メイド)」と表現。私はこの文章で便宜的に「お手伝い」と表記しているが、邦訳では当時の呼び方にならって「女中」と



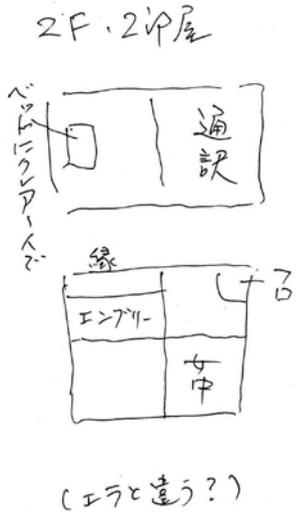
奥田さんの後の2人のお手伝い  
(1936年2月、エンブリー撮影)

つけが厳しゅうて、倒れても起こすな、手を引くな、と。起こそうごたったばってんな。夫婦は、昼食に帰って来て、また出て行つとった。クレアは私に懐いて可愛かった。おしつこも時間を決めてさせとった。お昼に湯浴みさせとった

そんなクレアの子守りも、翌年一月中旬までしか続かなかった。幼い子を育てる環境を危惧した夫婦が、東京のエラの両親の元に帰したからだ。一カ月後に奥田さんはエンブリー家を辞することになる。

夫妻の食事に関する奥田さんの記憶も貴重だ。

「朝はパン。マサさんと二人でパンを作った。アメリカから食材を送ってもらつとった(エラの両親が東京に住ん



奥田さんが教えてくれたエンブリー夫妻の貸家の間取り図(筆者記)

している。奥田さんを訪ねた村長や校長も「女中」と言っていたと思われる。奥田さんの仕事は、十二月二十八日で二歳になる一人娘クレアの子守りのほか、料理、掃除など夫妻の身の回りの世話もあった。しかし、「子守り」という言葉へのこだわりには、奥田さんならではの思いが込められているような気がした。『須恵村の女たち』には「女中」の振る舞いがふんだんに、かつ軽妙に描かれている。

こうした思い出話の一部を、私は『忘れられた人類学者 エンブリー夫妻が見た〈日本の村〉』(忘羊社、二〇一七年)で紹介した。奥田さん以上にエンブリー夫妻を語れる人はいない。私がかがった奥田さんの記憶を少し詳しく振り返っておこう。

夫妻には「甘い子育てをする」と思えた村民は、クレアに対するエラの「厳しさ」が理解できなかった。日本と欧米の文化の違いを浮き彫りにする箇所だ。奥田さんも、特にそのことが強く印象に残ったと見え、同じ感想を会ったびに述べていた。

「私はクレアを散歩に連れて行つとった。エラさんはしており、東京からの勘違いか)。西洋料理の作り方を書いて教えてもらった。ご飯はあんまり食べんかった(エラは和食だったようだ)」

『須恵村の女たち』には「女中がいつでもきちんとして作ることができる、いくつかの簡単なメニューをこしらえておいた」とある。奥田さんらは、そのレシピに従って料理していたのだ。近所に住む年寄りも「ステーキかオムレツか」、いつもいい匂いがしていたと話す。こうした証言は、夫妻が須恵村で「ご飯にタクアンとみそ汁」生活を送っていたという幾つかの記事の思い込みを修正するのに十分だった。

一方、夫妻が住んでいた貸家の間取りは、いまだにはつきりしない。『須恵村の女たち』によると、二階に小さな三部屋があり、お手伝い、通訳の佐野、クレアの寝室だったということになっている。しかし奥田さんは、間取り図を書いて解説しながら異論を展開する。

「家は二階に二部屋あつて、クレアがベッドで一人で寝ていた。隣の部屋は通訳の部屋。一階は、夫婦が寝て、うちら二人はここ(隣の部屋を指しながら)で寝た」

最初はそう話していたが、次に会ったときは「私も二階じゃった」とやや曖昧になった。この貸家は残念ながら取り壊されたが、どこかに間取りが残されていないものかと思う。

「エラさんは日本語が上手だった。時々分からんこともあったけど、薪を一把二把、鳥も（発音が）同じように二羽二羽と数えるとか、習った。客も多かった。よう村の人が来て、お茶を出した」

一カ月の手当ては六円（現在の二万円ほどか）だったという。「けっこう高かった。通訳（佐野）が確か七十銭だった」。村民の思い出と同様に、夫妻に対する奥田さんの印象も良かった。

「怖いと思ったことはなかった。エンブリーさんは優しくかった。奥さんはちつと厳しかったばってんな。盆正月に着物、履物を買うお金をくれた。免田で買った。免田に買い物に行った。エラさんは髪が赤かった。白浜さんのお母さんの結婚式のときは二人は本座に座つとんかった。隣に座つたエラさんが、嫁さんの顔を『顔白い、色白い。きれい』と言って覗き込んだんだった」

エラの『須恵村の女たち』には「あき」（仮名）というお手伝いが登場する。友達に恋文の書き方を教えたり、エンブリー家に忍び込んだ夜這いの若者を追っ払ったり、大活躍である。もちろん、エラがあきから聞き出した工ピソードだ。お手伝いは、夫妻の世話をするだけでなく、最も重要な情報源の一つでもあったのだ。あきが誰か、奥田さんには思い当たる筋はなく、もう知る人もいない。奥田さんは、エンブリー夫妻のお手伝いを辞めた理由についてこう述べる。

「マサさんと二人いるときは楽しかった。マサさんは満州に行つて結婚して、還暦まもなく亡くなった。マサさんは途中で辞めて、一人になつて寂しくてうちに帰つた。帰りぎわにエラさんは『アメリカと一緒に連れて行く』と言つた。クレアが懐いていたからじゃろうけど、戦争中やしな、とてもとても」

夫妻に関する奥田さんの記憶は、美しく彩られたままのようだった。ご冥福をお祈りいたします。

【たなか・かずひこ／福岡市】

## 春は花

梅

手を入るゝ水餅白し納屋の梅

漱石32歳

梅の花貧乏神の祟りけり

同

眠らざる僧の嚏や夜半の梅

同

相逢ふて語らで過ぎぬ梅の下

同

漱石全集によると、「子規へ送りたる句稿三十三一〇五句」として梅の句ばかりを連ねている。右は、

子規が高評価の丸をつけたもののうちの4句。漱石32歳、句作にもっとも油がのつていた在熊時期と思われる。当時の句には季重なりも多くみられる。病に伏せている子規への励ましともみられる庄巻の梅105句の連作。

桜

名は桜物の見事に散る事よ

漱石28歳

この幼い詠みもまたほほえましい。桜は所詮いつせいに散るものですよ。漱石28歳、俳句を始めてまだ150句目の句。

尼寺や彼岸桜は散りやすき

漱石28歳

女らしき虚無僧見たり山桜

漱石29歳

桜と女、桜と死をとりあわせる発想は今も昔も変わらない。はなやかさが併せもつ陰の余情を詠んでいる。

桃

寺町や垣の隙より桃花

漱石47歳

寺町と桃の花の対比は絶妙の取り合わせ。詠み慣れた巧者の俳句になっている。さすがに後年の漱石はすつきりと描写で詠んでいる。

舗装路の小さき窪みや梅の花

男性の育児休業桃の花

【いわさき楊子／川柳と俳句の愛好家、熊本市在住】



# 「一億総活躍社会」「男女共同参画」の行く末は…。

おてんばドクター…大草知子

労働人口の減少や高齢化が切実な問題となっている昨今、政府は「一億総活躍社会」とのキャッチフレーズのもと、以下を提案し、実行しようとしています。

- ・女性の職場進出…さあ、男女共同参画社会です。女性もどんどん社会に進出して活躍くださいね！
- ・高齢者の活用…ご老人たち、豊富な人生のノウハウを次の世代にしっかりと引き継ぐべく、しっかりと働いて下さいよ！

個人のニーズに合わせた働き方・個人、個性を尊重し、とことん働きやすい職場にしましょうね！

みなさまご存じの、いわゆる「働き方改革」です。ところが、現実には「見かけ倒し」が多く、場合によって

は「逆効果」さえあるのが実情です。その現場の声をパロディー風に記載してみました。

## ・女性の職場進出

女性のつぶやき…進出、進出といわれても、あくた、女性には「ガラスの天井」があり、おまけに「ドレスの裾踏み」されては、ちつとも進めないわ。変なエネルギーを消耗するだけですよね。やっつけられないわ！

男性のつぶやき…ボヤボヤせずに働け、働けて言われても、仕事量は増えるし、もう限界だ。家に帰れば「家事・育児・介護の分担」とやらで、僕、心身衰弱しちゃって、困っちゃっ。



## ・高齢者の活用

高齢者のつぶやき…え、この年でまだ働けっか〜!? うちら戦後の復興を、多くの苦労を汗水流して支えてきたんじや。どうかここで一息つかせてくださいませ。若者との世代ギャップの環境で働くと、結構、体にこたえるんですよ。お代官様、ただでは隠居できないってことですか。そ、そ、そ、そんな、殺生な。

## ・個人のニーズに合わせた働き方

労働者のつぶやき…私、子育て真っ只中、おまけに旦那の働きが悪いので、お給料〇〇万円は欲しいわよね。おいらは家族との時間を大切にしたいから、週休は〇日、出勤時間は自由にしてほしいな。残業、時間外労働はごめんだね。結果を出せば、労働時間や勤務日数なんて、関係ね〜だろ？

雇用者のつぶやき…会社の役割、ニーズがどこかに吹っ飛んでしまっていないか?? こりやたらまん、助けて〜!



私が目撃したオーロラの爆発

ちょっと個人的に暴走しすぎた感がありますが、お許しください。現実的な問題として、政策と現状に大きな隔たりができていく理由の一つとして、職種・企業の特徴、加えて労働者の個別特性を十分理解、研究された上での政策ではないためだと推測します。表面だけをなぞった、現状に則していない政策に見えるのは、私だけでしょうか？

今回は「女性の職場進出」に焦点をあてて考えてみたいと思います。2017年の世界男女格差指数（1は平等、0は不平等）のレポートでは、世界144主要国の中で、日本（0.657）は114位と報告されています。ちなみに1位はアイスランド（0.878）、2位ノルウェー（0.830）、3位フィンランド（0.823）です。日本の各分野での詳細順位は、健康・保険分野1位、教育分野74位、経済参画分野114位、政治参画分野123位です。

これらの順位から見えてくることは、我が国では「政治、経済参画分野」の不平等が著しいため、「二億総活躍社会」だの「男女共同参画」と声を大きくしても、

現場では大きな歪みが生じるのは当然のことだということとです。我が国は、自国の歴史、風土や文化の背景を無視した政策ばかりを唱え、他国の模倣に頼り、具体性に欠ける、非常に薄っぺらな政策を立てていると思つのは、私だけでしょうか？ 一方、1位の「健康・保険」に関しては、医師国家免許は男女差なく与えられる免許資格、それ故に医学という学問分野に男女差なく参画し貢献できます。この男女差のない学問追求が、国民皆保険制度の元、世界に誇れる健康・保険王国を築き上げた結果となったのではないのでしょうか。

一方、医学界における女性の社会的待遇には未だに大きな男女差が残っています。私が医師になった頃、女性医師の比率は10%以下（現在は30%）の時代でした。入局したときの先輩女性医師からの忠告が未だに忘れられません。「医学界で女性医師が生きていくにはね、男性は70%の働きで、上司は満足。女性は120%の働きが必要よ。150%働けば、おっ、こいつ、やるな」。200%働けば、責任ある仕事を任せてもらえる。300%働けば、一目置かれて頼りにされる。でもね、

それ以上働いては絶対だめよ。男性から、足をひっぱられるからね」。約40年前の先輩からのショッキングな助言ですが、一部は現在の医学界で、未だに通用する内容であると実感しています。

先日、駐日アイスランド大使（女性）と男女共同参画についてお話をする機会がありました。アイスランドでは、1975年、男女平等という目的のため、90%の女性が二丸となって二日ストライキを起こし、社会に大きな困惑を生じさせました。このス

トライキがきっかけとなり、当たり前前だと思われていた女性の家事や育児が見直されたそうです。あらゆる分野での女性参画が推奨されている時代になりました。少子高齢化社会を如何に乗り切るか、今一度よく考えてみたいと思います。今回は日本国内、世界で頑張っている女性への応援の意をかね、投稿させて頂きました。

【おおくさ・ともこ／医師、宇部市】



これは凄い光景。オーロラの中を横切る飛行機

# くまがわの神さん仏さん ③ 宝来薬師堂

宮原信晃

人吉市内のボーリング場より少し西へ300m程進むと左手に大きな看板が建っている。

「宝来薬師堂」だ。敷地に入つて直ぐに、石の頭を日本刀でスパッと斜めに切られたような石碑がある。

「南無阿弥陀仏」と刻まれた阿弥陀信仰の文字がお参りに来る人を迎える。

この石碑こそ、「隠れ念仏」の石碑なのだ。安心和尚の弟子、禅休が師の教えに従い、各地に石碑を建立したが禅休が建てた最後の石碑の



宝来薬師堂にある石碑。「阿弥陀佛」という文字が浮き上がって見える(下)



ようだ。

この石碑は下青井町の好来ラーメンさんや坂田鮮魚店さんの前あたりの下水道工事の際に発見され、厚くこの宝来薬師堂に安置されたよ



黒肥地改太郎さん

うだ。

「そこは江戸時代の球磨絵図に蓬葉ヤクシと書かれていたつですよ。

そこから石碑が見つかったとでもんな」と黒肥地改太郎さんから詳しく教えて頂いた。

隣にはこの薬師堂を建立した記念碑があり、その横に「薬師堂」があった。

「堂は昭和27年の建立。薬師如来は室町初期を下らない作。元蓬葉堂薬師如来か」と九州相良の寺院資料にあった。お近くの柳ひろ子さんにお聞きすると「薬師如来様は、長く永国寺に預けてあったのをここに移して、お堂を建てて奉ったそうですよ」と教えて頂いた。さて、その薬師堂の奥には、左膝を立てたお地藏さんがお座りだ。

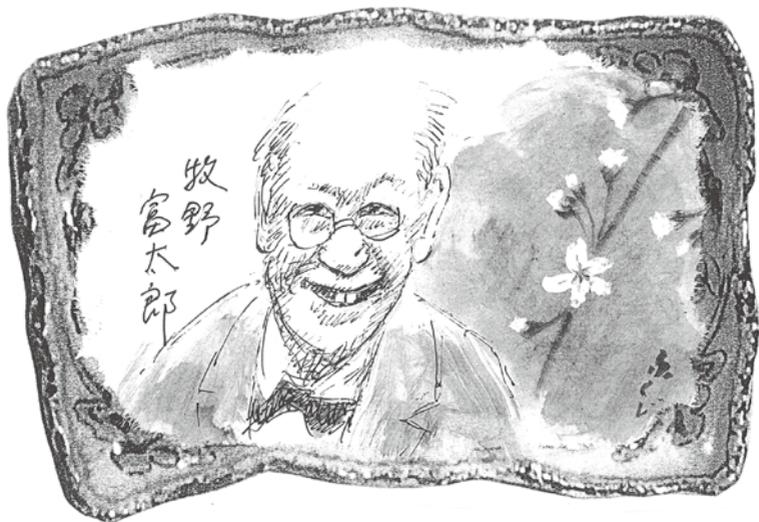
宝来薬師堂の内部  
私の山勘であるが、1800〜1850年作ではないかと、お地藏さんの衣や左手の宝珠の大きさから推測した。



# 記憶の落し穂

その 35

絵と文／坂本福治



## 百まで尚道遠し

三十年代後半、画家の松岡次賀先生と、高知県へ  
ご一緒したことがある。坂本龍馬の銅像がある海岸  
の風景は、絵はがきのように美しかった。観光の地  
図も持たず、行き当たりばったりの旅行だった気が  
する。竹林寺という寺では、整わない石段をゆっく  
り登った。

ある所の右側に、「牧野富太郎植物園」という、  
背のひくい立て札があった。少し休憩するか、てな  
気持ちで入ってみた。ところが、絵でしか見たこと  
がない植物が、そこかしこにあったのである。赤ちゃ  
んなら座っていられそうなタライ状の植物もあった。  
しかし、私の心に深く記憶されたのは、一枚のはが  
きだった。「百まで尚道遠し 九三。九十三歳になっ  
ても、まだ時間はたっぷりある。そんな気魄を讀ん  
だ。となりの町の私の友人の父親が、中国の吉林  
省に住んでいたが、珍しい品種の桜の木を見つけた  
そうで、それを知った牧野が、吉林省まで訪ねて行  
き、友人の父親に会った写真を見せてもらったこと  
がある。

【なかもと・ふくじ／画家、人吉市】



薬師堂の奥にある左膝を立てたお地蔵さん

「元は「蓬萊」  
と書かれてい  
たのがいまは  
「宝来」と読  
まれます」  
と書かれてい  
たのがいまは  
「宝来」と読  
まれます」  
と書かれてい  
たのがいまは  
「宝来」と読  
まれます」

【みやはら・のぶあき／FBお地蔵さん調査隊代表・人吉おおくま座の会事務局】

首は割れて明治の廃仏毀釈の傷跡が今も生々しく残っているのだった。

お地蔵さんの後ろに回って年代が刻まれていないか覗いたが、見つけることが出来なかった。

境内には埋もれていた井戸を掘り出して、低い屋根を付け「命の水」

がここからこんこんとわき出していた姿が目につかんで来た。

一向宗の隠れ念仏の石碑に、室町

初期の薬師さん、左膝を立てた江

戸末期のお地蔵さん、それに、地

中にも声が届きそうな井戸を備え

た、それこそ三拍子揃ったお堂が人

吉市内の町の中に存在するとは何と

いうありがた

さか。

新しく大き

な店舗が出来

た、その真ん

前が宝来薬師

堂。

元は「蓬萊」

と書かれてい

たのがいまは

「宝来」と読



割れていたお地蔵さんの首

# 川とともに生きるひびひ

土肥勲嗣

夏になると川で泳いで遊んでいた。生まれ育った旧岡原村や隣の旧上村でも泳いでいたが、魚釣りが好きな旧深田村のおじさんが連れて

行ってくれた川辺川は鮮明に記憶に残っている。川幅が広く、水の量が多く、流れが速かった。市房ダムができる前の球磨川は寝そべっているだけで浴衣の中に鮎が入ってきたという話をおじさんは教えてくれた。

高校生のときは柔道部の練習が終わると先輩に連れられて川辺川にいき、水着がないのでパンツ一枚で泳

いだ。境田橋から飛び降りたものそのときで、それなりの勇気がいったものである。

ダムのことを知るようになったのは高校生のときである。同級生が音楽の授業で五木の子守唄をうたい、村がダムに沈むという話をしていた。その前に一度みておきたいと思い、友人の家に泊まりにいった。人吉からバスで川沿いの道を通っていったが、たびたび停車しては対向車と道をゆずりあっていた。友人の

家は川のすぐそばにありせせらぎが聞こえた。村役場も小学校も川のそばにあった。ここがダムに沈むのかと感慨にふけたのは今から四半世紀前のことである。別の同級生は校門の前で署名活動をしていたが、そのときは特に気にもとめなかった。あとでわかったことだが彼らは若鮎の会というのを立ち上げてダム計画の見直しを訴えていたのである。

ダム問題を調べはじめたのは大

後、福岡で暮らすようになり、川辺川ダムに反対する運動を取り上げた新聞記事が目にとまった。なぜいまごろ反対なのかと率直に思った。自由課題の論文を書く機会があり、川辺川ダム問題をテーマに選んだ。春休みを利用して手渡す会の重松隆敏さん、利水訴訟原告団長の梅山究さんのお宅に伺った。はじめの調査で質問も何も考えてい

ない学生に重松さんは水害体験の話を丁寧語してくれた。他方、梅山さんは多くを語らず二人で過ごした沈黙の時間がとても長く感じられたことをよく覚えている。あれから二〇年がたった。ダム問題の調査研究をこんなに長く続けることになるとは思ってもいなかった。



川辺川ダム問題への当初の関心は、なぜ反対の運動があれほど盛り上がったのかにあった。学部四年生のゼミ論文、大学院に進学した後も修士論文、博士論文と同じテーマを研究続けた。この間、川辺川ダム問題は急展開をみせるようになる。熊本地裁、福岡高裁、住民討論集会、収用委員会、県議会などと、実際に現場に足を運んで、自分の目



写真① 社殿全景

# 古田阿蘇神社をあるく

森山 学

建築みてある記 ③1

で見て、耳で聞いて、問題解決の道のりを直接体感することができた。

大学では政治学を専門に学んでい  
る。政治学者としては丸山眞男が  
よく知られている。丸山は戦前の日  
本があの戦争に突き進んだ原因を  
日本人の精神構造に着目して分析  
をおこなった。東京裁判で関係者は、  
既にきまった政策には従わざるをえ  
なかつた、あるいは既に開始された  
戦争は支持せざるをえなかつたと証  
言した。既に現実が形成せられた  
ということがそれを結局において是  
認する根拠となることを丸山は「既  
成事実への屈服」であると指摘した。

川辺川ダム問題でも同じような  
証言がみられた。水没予定地から  
移住した方を対象とする聞き取り  
の記録を読んでみると、下笠ダムの

室原さんでさえも国には勝てなかつ  
た、ダム建設反対を闘っても無駄だ、  
国策だから反対してもどうにもな  
らない、と多くの方が語ったよう  
である。時計の針を二〇〇年、三〇〇年  
後戻りさせることはできないと県議  
会で所信表明したのは福島譲二熊  
本県知事であった。

いま、川辺川ダムは建設されて  
いない。三〇〇年分の人吉新聞に目  
を通してみた。近年は川辺川ダム  
という言葉が紙面に登場すること  
がほとんどなくなったことに驚か  
される。実は三〇〇年前もそれほど  
関連する記事は多くはなかつた。  
ただ五木村の問題としてのみ報じ  
られていたのである。この三〇年間  
に何が起こったのか。インタビュー

をお願いしたひとは百名を超えた。  
梅山さんや重松さんの他にもすでに  
他界された方は少なくない。多様な  
ひとびとが、いろいろな想いを抱い  
て、既成の事実には屈服することなく  
行動したことがダム計画の見直しに  
つながっていったのではないだろう  
か。川とともに生きるひとびとの思  
想と行動をきちんと記録し、記憶  
にとどめ、川辺川・球磨川で泳い  
でいる子供たちに語り継いでおきた  
い。

【どい・くんじ／旧岡原村出身、  
大学教員】

球磨川下流の遙拝堰から、右岸

を上流へ約五〇〇メートルほど行く  
と、古田阿蘇神社がある。ここは  
八代市坂本町西部。古田地区は山  
の斜面と球磨川にはさまれた小さ  
な集落である。拝殿から、斜面を  
急勾配にせり上がった位置に建つ本  
殿の姿(写真①)は、対岸からも  
目を引く。今回はこの古田阿蘇神  
社を歩きたい。

最寄り駅はJR肥薩線の段駅。  
ここから川沿いをぶらり、三〇分ほ  
ど散策しながら訪れたい。  
古田阿蘇神社はかつて、下松求

麻村の村社であった。付近には高田  
の渡し場があったが、現在の遙拝堰  
が建設された際、渡しは廃止され  
たようである。対岸にあった渡し場  
付近には、豊葦原神社(遙拝神社)  
がある。

球磨川沿いの県道一五八号線は堤  
防上道路であり、境内と球磨川を  
分断している。かつては古田の河原  
があったようだが、この道路から下つ  
て境内へと入る。

古田阿蘇神社の祭神は阿蘇十二  
明神のうち、健甕龍命、比咩明神、  
国龍明神、比咩御子明神である。「神  
社明細帳」によれば、称徳天皇天  
平神護年間(七六五〜七六七)の  
創立、醍醐天皇昌泰三年(九〇〇)  
に当地に遷座した、とある。天正  
年間(一五七三〜九二)に社殿が



写真④ 一段目のテラスから二段目、三段目を見る

の身長ほどの高床で、階段を九段のぼる。その奥にある幣殿との高さを調整するために、拝殿の床高も高くする必要があったのだろう(写真④)。

拝殿の背面にもまわりこんでいる縁側から、最上段の幣殿、本殿へと十四段の石段が続く。石段自体には切妻屋根

が架けられている。この石段の左右には各々、片流れ屋根の板間が設けられている。対をなすこの板間は、拝殿との高さの差が階段一段分しかないが、これは拝殿がずいぶん高床にしているためであって、実は二段目のテラスの上に建っている。

この二段目のテラスと最上段のテラスの高低差が大きく、そのため

あり、右側の鳥居の唐破風には兎の毛通しに阿蘇神社の社紋に通じる「丸に違い鷹の羽」紋がある。屋根など一部をビシャン仕上げにするなど、手の込んだ堂々たるものである。

鳥居から直進して二段目のテラスの階段を上ると、拝殿がある。拝殿は明治三五年(一九〇二)の建築であったものを、平成二十七年、それをほぼ踏襲するかたちで改築された。

入母屋造の平入りで、規模は正面が柱間の数で三間、奥行が二間の広さである。周囲に擬宝珠高欄がつく縁側がまわっている。そして人



写真⑤ 拝殿から石段を見る(拝殿改修前)



写真⑥ 幣殿前から石段を見下ろす



写真② 石鳥居と石灯籠

焼失し、その後、加藤正方の時代に復興されたようである。

境内の東側に山があり、西に球磨川が流れる。境内の山手側に石積み擁壁で造成された三段のテラスがある。社殿はこのテラスに順次、建て並べられており、西側の球磨川へ向いている。

平地には石鳥居が立つ(写真②)。形式は明神鳥居で凝灰岩製である。肥前石工・村山兵太夫によって、元禄九年(二六九六)に建造されている。これが八代市内の最古の鳥居である。笠



写真③ 右手の石灯籠

木・島木、貫は三本継ぎ、柱は二本継ぎである。典型的な肥前鳥居と比べるとそれほど極端な造形とは言えないが、重厚である。その亀腹には線形がある。

鳥居前には二対の大きな石灯籠がある(写真③)。屋根には唐破風が

十四段の石段は結構な急勾配である。拝殿から見上げると、拝殿の中央間の柱と虹梁で枠取りされた



写真⑦ 自然岩盤が露出する旧道

フレームにすっぽりと石段がおさまる。急激に立ち上がる石段に光が射し込めば、まさに神殿へと続く聖なる道のりのようである

(写真⑤⑥)。

厳かに石段をのぼりつめれば、すぐそこに幣殿が建つ。幣殿の奥行はわずか一・三メートルほどで、その先に本殿が建つ石積み基壇がある。本殿が建つ神域は基壇とするが、そのすぐ脇は自然岩盤が露出して盛り上がる。山を整地して作った様子が窺える。本殿のすぐうしろに細い旧道が通るが、この自然岩盤の上にブロック塀を立て境界

としており、なんとも野趣あふれる(写真⑦)。

本殿は一間社流造である。細川三斎時代の修復以後、何度か改築修復の記録が見られるが、現在の本殿については文化六年(二八〇九)、弘化三年(二八四六)の棟札があるようである。屋根は昭和七年(二九三二)に茅葺きを銅板に葺き替えている。鬼板、大棟に「違い鷹の羽」紋があり、大棟上に置千木、勝男木がのる。

向拝柱の木鼻は龍頭と獅子鼻である。特に龍頭は体を渦巻く雲紋で表し、とても愛らしい(写真⑧)。

本殿の側面から妻飾りを見てもよい。柱の頭同士をつなぐ頭貫があつて、その上に台輪と呼ばれる板上の部材がのる。その上に臺股、さ

らにその上に蛇腹支輪。その上の棟木を支える部材が、向かつて左側の北面には二頭の飛龍を題材とした大瓶束笈型、右側の南面は二頭の



写真⑧ 龍頭

獅子からなる大瓶束笈型である。

さてこの最上段からは拝殿の屋根ごしに球磨川を眺めることができる(写真

⑨)。また本殿背後の細い旧道に沿って、実は肥薩線が走っている。山際本殿、自然岩盤を縫うように走る電車の姿もよい。さらに、境内北側の下り坂を下りてみれば、カルバートトンネルが堤防上道路の下をくぐり、トンネルの向こうに川辺が現れる。ここではこうした素晴らしい風景にも出合うこともできる。



写真⑨ 拝殿の屋根ごしの球磨川

【もりやま・まなぶ／高専教員、一級建築士、八代市】



上杉芳野の「あがつ段」③③

# 嫁・姑、今が幸せ



母の米寿祝い集まった親戚の人たち（平成31年1月25日）

今から45年前、主人との結婚を決めた時、主人以外誰の事も頭になかった。ただ「謙ちゃんと一緒にになれる」その喜びしか

なかった。 仕事の関係で熊本・北海道・横須賀と転勤族ではあったが、どこに行こうと不満はなかった。

主人が長男と

いう立場から地元に戻り親をみる事を決意し、私達の長男が小学6年生卒業と共に帰郷した。

当時私が38歳、母が58歳、元氣

もりもりで、何でも出来る両親だったから、今思えば帰って来るには早すぎたのか

もしれない。

でも私は赤ちゃんの頃、実母を亡くして育ての親ともいえるような事があったので、両親と暮らす事には何の抵抗もなかった。

主人の母が他界し、その後に来られた母であり、子供もいない事から本当の親子になりたいと思っていた。

一緒に買い物したり一緒に料理を作ったり、いろんな話を笑顔で話せる事を夢みていた。

しかし、現実はその甘いものではなかった。

育ての親以上の暴言・態度、信じられない行動に悩

まされ、仕事をしていても

涙が出て、寝床に入って寝ていても涙が出て、胸が苦しくて胃が痛くて胃潰瘍になった。

それが治っても何回も何回も繰り返した。

ある日、本当に家にいるのが辛くて荷物をまとめ、こ

の家を出ていこうとした。

でも、当時小学2年生だった娘が走って来て、私の手を払いのけ「私も便所で泣きよつとばい」と

私に抱きつき涙一杯溜めて言った。

その言葉がなかったら3人の子供を置いて出て行っ

ていただろう。

今だから話せる事かもしれない。

あの頃は「お母さんが年老いたつちや誰が面倒なんかみるもんか」と思うくらいお母さんのことが嫌で嫌でたまらなかった。

「育ての親も嫁入り先の親も、何で私は母親に縁がないんだろう」と思っていた。

でも今は違う。

主人の父が亡くなり認知症になった母は私を頼りに、どこに行くのもしっかりがみついて喜んで付いて来る。

おやつの後にもニコニコし

ながら「うまかった、ありがとう、幸せ幸せ」と言ってくれる。

あの頃が嘘の様に、やさしい笑顔になり、まるで仏様の様だ。私が以前から夢みていた本当の親子になった。

どうせ面倒みるのなら気持ち良くみていこう。すぐに忘れる母だが、今喜んでくれる事をたくさんしていこう。

こんな日が来るなんて私も今が幸せだ。お母さん頼ってくれてありがとう。可愛い姑に感謝である。

【うえずぎ・よしの／ボランティア観光バスガール、あさぎり町上】



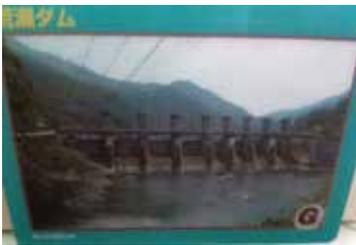
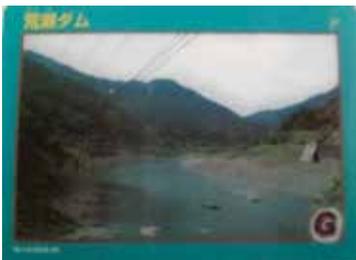
姑と仲良く…。こんな日が来るなんて

# 立野ダムの場合

上村雄一

本誌32号40頁以下で荒瀬ダムの「ダムカード」を紹介・検討した。同ダムは昨年3月に撤去工事が終了している。したがって「荒瀬ダム」は現在では、ダムとしては存在しない。

その痕跡が部分的に残っているだけである。それにもかかわらず、熊本県企業局は同ダムのカードを二種類発行（しかも両者はともに特別仕様カード）した。前記小論はその目



荒瀬ダム「プレミアムカード」。ダムが存在したときの画面と撤去後の画面を表示する特殊なカード



荒瀬ダム「コンプリートカード」。ダム建設直後の写真を表紙にした特殊なカード

的を確認しようとしたものである。結論として、同ダムを建設することで戦後の電力需要に応えたという企業局の自負と全国初のダム撤去を実施したという同局の自信を示すこと、地元振興に協力したいとの意思を示すこと、全体として、同局の存在意義をアピールすることにカード発行の目的があったとした。

これに対して立野ダムはまったく違う。同ダムは、現時点では、存在していないのだ。存在していないにもかかわらず、国交省はカードを発行した。その理由を確認することが小稿の目的である。

現在、国交省は、建設に対して強い反対意見があるなかで、同ダムの建設を進めている。一見するかぎり

は、ダム建設が実施されているのか確認できないほどの初期段階で、「後戻り」も不可能ではない。

振り返ってみると、同省は、本体工事の起工式（昨年8月5日）にさきだつ同4月25日にダムカードを発行

したのであった。しかも同省のHPはカードの画像を意図的にぼかし、同ダムへの好奇心をおおるかのような宣伝をした。ダム建設に反対意見・異論がないのであれば、そうした手法も許されるかもしれないが、反対意見の存在が目立つ時点でカードを発行した。ダム建設を進めるとの強い意思がそこにある。

同ダムは白川水系に属する。そのためか、球磨川流域住民の同ダムへの注目度は必ずしも高くはない。同ダムは国の直轄事業であるからその事業費は国が全額負担すると誤解している人もいる。しかし、じつ

さいには総事業費917億円のうち3分の1は熊本県が支出

することになっている。県民1人あたりになると1万5千円を負担する事業である。球磨川流域住民もその金額を子どもも含めて負担するのである。離れた地域でのダム建設の場合、それが自己の税金に関係していることを忘れてしまいがちで、立野ダムについてもその傾向がみられる。無論、県民の生命・財産を本当に守る事業であれば、そうした負担も苦にならないだろう。しかし、同ダムの必要性が明瞭になっているわけではない。白川の洪水被害を防止するために一定の対策が必要だが、ダムを建設しなければその目的を達成できないわけではないのだ。川幅を拡張し堤防の強度を高めることだけでも洪水被害を大幅に軽減できる。同時に、同ダムが活断層に隣接する地にあること、



ダム建設予定地付近（1月23日時点）。建設現場にちかづけないので、「展望所」から見たが、同地からはダム建設中とは分からない。写真手前の橋は南阿蘇鉄道・立野橋梁（1924年完成。推奨土木遺産）である

# おっとわっとあすび その26

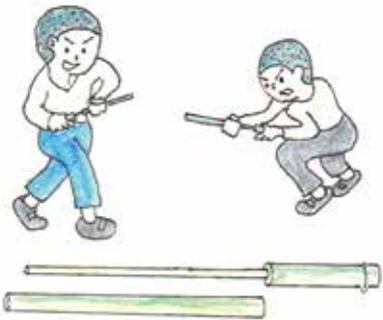
絵と文／松舟博満

ニガ竹のなっただけ節の長んかと、そのの中きやひやつぐたる細かとはうちきつてきて、板ん上ん乗せ、節から二寸ばかりん所んにコガタンの刃ば真横んなつごてあてて、コガタンの棟ば手で押さえながら竹ばコロコロやつて転がっごとしおればきれいに切るつで、先ん方の穴んなきや使おうぐたる実ば入れつみて、穴の小みんかったり太かったりすれば、次ん所つば同じごてしてうち切つて、実ば穴ん合わせてみてちようど良かつたなつば、そこん節で銃身のなっただけ長ごうひなつごて節

## 突き鉄砲づくり

の手前で切つて、握りやあ二寸なあつばつてんみしかか、節から元ん方きみや一寸の所つでうち切れば三寸の握りん出くつで、細か押し棒なつ竹ば銃身に差込うで、あんまつとガタガタせんぐりやん所つで先ん方に節ば残けえて、先ん方ば握りん挿して銃身に長さば合わせて見て、三分短ごううち切つて押し

棒から抜いて、切った方ば握りん強う押し込んで、隙間にや竹ば薄うに削つてひん抜けんごてクサピンしてうち込めば「突き鉄砲」んなった。  
そつぞれん出くれば、背中ば合わせて五歩あゆうでいたてん撃ち合いん決闘ばしたり、ふた手ん分かれて撃ち合い合戦の時、玉のあたれば百数ゆんまでうつ死んどかなばなんじやつたで、早よう生き上がるうともうて、指ばおつながら「は・な・く・そ・ま・ん・き・ん・た・ん」て十ぺん云うて生き上がったから撃ち合いんかたつおつた。

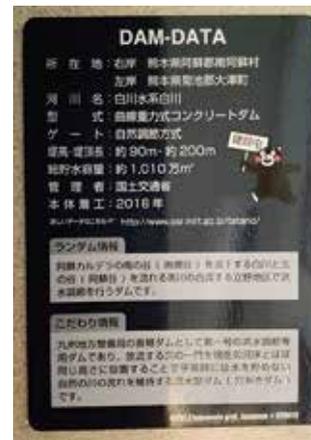


【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇 神社・文化苑「童遊館」】

ダムが建設された場合、世界遺産の阿蘇の美観を損なうことには異論がないであろう。同ダムの建設に賛成意見があるのは承知している。しかし強い反対意見も存在しているのであつて、白川治水の方法について、現時点では、合意は形成されていないのである。そのなかでダムカードが先行



立野ダム・ダムカード表



立野ダム・ダムカード裏

的に発行された。それにしてもつくづく思うのだが、国交省は立ち止まって考えることをしないところにみえる。芥川賞作家の絲山秋子『離陸』の言葉をかりれば「二度オンしたら、計画を最後まで強行する」というメンタリティーが同省を支配している。「住民の意見に耳を傾け、計画を修正する」という思考回路は同省には用意されていない。川辺川ダム建設のときもそうであつたし、おそらく、いまでもそうであ

る。同省は川辺川ダム建設について「オン」から「オフ」に切り替える措置をとっていない。同ダム建設は中止になつたと誤解している人も少なくない。だが、そうでない。法律上は「川辺川ダム」は生きています。立野ダムのように、いきなり川辺川ダムのカードを国交省が発行しても不思議ではないのだ。

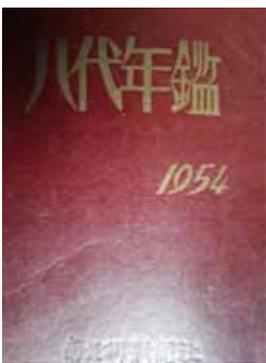
荒瀬ダムの場合、企業局は、同局の組織体としての存在意義をアピールするためにカードを発行した。立野ダムの場合、国交省は、そうでなく、ダム建設を断固として進めるといふ同省の意思表示としてカードを発行した。そのため同カードには、地域振興にかかわる記載は一切ない。

【うえむら・ゆういち／編集主幹】

# 「大・八代」をつくる

昭和20年代後半に、八代市萩原栄町（現在の萩原町）に南九州新聞社という出版社があった。同社は終戦直後から地域新聞（「南九州新聞」）を発行し八代の世論形成の一翼を担ったようだが、詳しい事情は分かっていない。

同社は、昭和29年12月1日に『八代年鑑1954年』（非売品）を発行した。八代市は転換点にあるとの判断に基づき、「年鑑」を刊行したようである。櫻井三郎知事、古賀清紀八代市長、重石隆三熊本県八代事務所長、山本慶太郎商工会議所会頭などの有力者の序文、



序文5頁、本文314頁、  
告140頁  
衆議院議員・坂田  
道太、県会議員・  
松本國治、同・松  
岡明、同・岩田泰  
雄、同・岩尾豊、同・  
保田蓄の写真を並

べている。市内・近隣の町村の多数の広告を載せている。広告を眺めるだけでも、当時の八代を垣間みることができるといえる。

同『年鑑』は地域新聞社による編集物の形をとっているが、当時の八代市の概要を総覧しているのであって、行政機関の協力を得て編集したとみてよい。しかしながら、当時の八代市の課題を提示している点に同『年鑑』の特徴がある。一言でいえば、「大・八代」を創出しようという提案である。同社は、昭和29年を「八代市」の転換点とみたのであった。①昭和の大合併による八代市の拡大と②球磨川流域にダム・発電所を建設する「球磨川電源開発」事業を、「大・八代」実現の契機とみたのであった。特に後者を意識している。荒瀬ダムはそうした政治状況のなかで建設されて、昭和29年12月25日に藤本発電所が営業運転を開始したのであった。それは熊

本県・八代市の認識と一致するもので、電源開発事業を通じて、「農業県から工業県への発展」が当時の熊本県（櫻井知事）の方針であった。八代市もそう考えていた。両者を代弁（代表）するかのようには『年鑑』を発行し、八代市の「世論」をその方向に誘導しようとしたのであった。

## ＜コラム① 地域新聞＞

終戦後、多数の地域新聞が発行された。「人吉新聞」は昭和33年9月12日に発行された。伊勢戸明氏によれば、その当時、熊本県下には百社を超えるローカル紙があり、人吉盆地でも10余紙が発行されていた（『くま春秋』人吉中央出版社184頁）。八代もおそらく同様であったろう。「八代日日新聞」（八代市二之町）、「八代日報社」（八代市前川町）などがあつたらしいが、今は残っていない。人吉球磨には「人吉新聞」が日刊紙として頑張っているのが、八代には「人吉新聞」に相当するジャーナリズムもなく、その有無の差は大きい。

しかしながら、『年鑑』は櫻井知事の言葉を羅列するだけの代弁物ではなかった。その分析はなかなか鋭いところがあつて、交通の要衝としての八代の位置に注目してもいた。昭和29年でもなくとも地理的条件は地域分析の中心になるが、それを意識的に追求するかは別の問題である。『年鑑』はそれを意識していた。いうまでもなく球磨川、不知火海、広大な干拓地など八代は魅力的な土地で、その発展を期待することには理由があつた。九州の中央部に位置することも八代の強みだ。鹿児島本線が走り、肥薩線の出発地であつた。交通の要衝に位置し、土地にめぐまれていたならば、その地は栄える。普通に考えるならばそうなる。『年鑑』もそうみた。

『年鑑』発行から60年以上すぎた。『年鑑』の予想・希望どおりには進まず、『年鑑』のいう「大・八代」はできなかった。むしろ「衰退」し、先月17日にJR八代駅の新しい駅舎が完成したが、以前の駅舎よりひとまわり小さくなった。

だが、なにも悲観的になる必要はない。新しい駅舎は現在の八代市の状況を反映しているだけで、身の丈に

あった駅舎である。建築物が大きければ、なにことも上手くいくわけではない。そうでなくて、住みやすい地域づくりに不断の努力を重ねていくことがなによりも重要で、それが結果的に「大・八代」につながる。平成の終わりに、八代駅の新駅舎が完成したのは偶然だが、時代は、大規模の建物を求めていない。小回りの効くコンパクトなものを求めている。物より、暮らしの質を求めている。そうした時代の雰囲気を感じとれなければ、八代は今後も「衰退」しつづけるほかない。大きな市役所を



以前の八代駅



今年2月に完成した新駅舎

中心に城下町的に町はできていくという発想が仮にあるとすれば、時代錯誤も甚だしい。慌てず騒がず、八代の地勢を改めて分析し、そのもつ力を冷静に見極め、その力を最大限に發揮できる仕組みを構想する力が求められている。

南九州新聞社は、『1954』のほかには『八代年鑑』を出さなかったが、平成の次の時代をみすえた新しい年鑑を出しているように思えるが、どうだろうか。

(春秋)

### コラム② 豊臣秀吉の時代の八代

八代は古くから全国に知られた地域である。もちろん八代はたえず変化してきた。たとえば秀吉が八代にやってきた頃とは現在とはちがう。八代平野の大半は江戸時代以降の干拓地で、秀吉はそれをみていない。相良家時代、海士江は上天草(大矢野)衆の寄港地であった。ルイス・フロイスは秀吉時代に「日本で一番美しい場所」と書いた。これについて、フロイス

は各地で同様のリップサービスに描いているとの意見に接したことがあるが、彼の本を読んだことのない愚論である。彼の時代はキリシタン弾圧直前から弾圧の時代であって、物見遊山的に『日本史』を書いたわけではない。緊迫した状況のなかで、可能なかぎり、正確に状況を説明しようとした。現在の一部作家と置かれた状況が根本的にちがう。

ところでフロイスのころ八代の人口は約5万人。当時

にあつては大都市で

ある。徳淵を中心にし

た海上輸送・川舟輸送

が八代を豊かにした。

秀吉は徳淵を直轄地と

し、その後、小西行長

が古麓の城を放棄し、

徳淵近くの麦島に城を

造った。加藤正方(加

藤清正の家老)も徳淵



潮止め堤防から見た現在の郡築

をにらんで松江に城をつくった。古麓の山城の時代は終了し、平地の城の時代になっていた。

松江城の築城と踵を接するかたちで干拓がすすめられた。松崎地区は代表例である。同地は旧坂本村松崎地区(坂本駅のある地域)の住民が移住して造った。そのため「松崎」の名がついた。干拓は進み郡築などの地ができた。秀吉とフロイスは、郡築はもちろんのこと、松崎地区もみていない。

### コラム③ 八代町と八代市

昭和15年(1940年)に、八代町、太田郷町、植柳村、松高村が合併し「八代市」になった。初代市長は坂田道夫。江戸時代の八代町は狭かった。出町などは城下町ではなかった。川舟輸送で賑わった萩原も八代町でなく萩原村であった。その後、八代市は日奈久町などと合併し面積を拡大していき、平成17年(2005年)8月1日の「平成の大合併」によって、現在の八代市になった。

# 砂時計

## —思い出るままに⑤

小野武己

### 3、ギブミー・チョコレート

小学校の2年生の時、家族は長崎県の佐世保市に移り住んだ。そこには太平洋戦争時に、戦艦武蔵を建造したSSKという造船会社があり、かつての軍港だったが、戦後はアメリカ海軍の基地になっていた。原子力空母エンタープライズ事件で知られている町であった。

僕の小学2年といえば昭和25年である。

昭和25年といえば、太平洋戦争に負けて、戦後復興の兆しが徐々に見え始めた頃で、そして、特需景気をもたらした、あの朝鮮戦争の始まった年であった。

僕の一家は、佐世保市の早岐という町に住んでいた。

国鉄の長崎本線は、博多から肥前山口に至り、そこで分かれて佐世保線になり、早岐でUターンして、終着駅の

佐世保に着くのである。

その朝鮮戦争の当時、佐世保港から船で朝鮮へ運ぶため、軍事物資を満載した貨物列車が頻繁に通っていた。無蓋の貨車には戦車や大砲や弾薬を積んでいて、有蓋の貨車には、上半身裸やランニング姿の兵隊たちが、ガムをくちやくちや噛みながら、首から下げた認識票のメタルをキラキラさせて乗っていた。列車は、この早岐でスイッチバックして佐世保の軍港に向かうため、まだスピードが出ていないのだった。

僕の通っていた小学校は、国鉄の線路のすぐ脇にあったので、小学校の運動場や教室から、列車が通るのがすぐ目の前に見えたのであった。

休み時間になると、学童たちは、わあーとばかりに線路の側まで走って行き、列車が通るのを待っているのだった。

そして、ちようど、カタン、コトンと列車が来る。おお、来たバイ…、と学童たちは、線路沿いを小走りしつ、どこで覚えたかは知らないが、有蓋貨車に乗っている沢山の兵隊さんに向かって叫ぶのであった。

「ギブミー・チョコレート！」

「ギブミー・チューインガム！」

「ギブミー・コイン！」

映画で「パパ・ママ・ピカドンでハングリ・ハングリ！」と、原爆孤児が、アメリカの兵隊さんに物乞いをする場面があったが、それとまるで同じであった。

アメリカの兵隊さんは、子供たちの叫びに応えて、いろいろな物を投げってくれるのであった。

拾ったコインやチューインガムやチョコレートを、お互いに見せびらかして、得意げな子供たちの顔は輝いていたよ

うだ。

「おいは、チョコレートばい。ピーナッツの入つとつと」

「おいは、ハッカの入つとるチューインガムばい」

「おいは、コインたい。食べられんちやがあ」

彼らの顔は、教室で勉強してる時のそれとは比べようも無いほどに活き活きとしていたのだった。

それはそうだ、おやつなんて満足なものとして無い時代だったし、学校の給食といえど、進駐軍支給の脱脂粉乳だけであり、持参した麦飯やサツマイモと一緒にゴクゴクした頃の事だったのだから、仕方なかったと言える、その通りだったのだ。

僕は通気性がよく、意外と保温性も良い柳行李の弁当

箱に芋麦ご飯だった。昼になると、子供心にもなんとなく恥ずかしさが去来したのだろう、両腕で隠すようにして食べたものだった。

「おい、お前の弁当箱は、着物入れのごったつたい」と、ガキ大将にからかわれ、悔しさを胸一杯になりながらも、「そがんこと言うなら、勉強で、勉強でこい」と、精一杯言い返していたが、その頃流行って来っていた鉄腕アトムの絵柄のアルマイトの弁当箱が羨ましくてならなかったの

あった。

そうした時に、いつも心をよぎっていく思いがあったのは否めない。

一体、何んだつたんだらう。

戦争に負けたからこうなったのだ、という感情と、進駐軍に対する負い目は…少しあったかも知れない。

何故か、ただ悔しかった。無性に何もかもが悔しくて、ホロホロと涙が溢れるのを禁じ得なかった。物を投げ与えられることへの屈辱感というか、小さな小学生であったけれども、それにはどうしても耐えられなかったような気がする。

だから、僕はその時ばかりは、物乞いする同級生たちを

# 漢和字典は面白い

19  
鶴上寛治

## 威

威厳・威  
威圧・威  
力・威風  
堂々・威  
光――。

いかにも強そうな感じの漢字だが、なんと部首は【女部】。「本当は女の方が強いのだぞ！」と主張しているみたいだ。平均寿命も女の方が長いし、家庭でも万事男性に屈従しているように見せかけておいて、実はちゃっかりと男性を尻の下に敷いているご家庭、結構いくらでも見受けられる。「嫡」なんて漢字にもそれに近い匂いが漂う。

## 誰

音読みはスイ、意味は《だれ・たれ・尋ねる》など。軍隊には歩哨（ほしやう）というものがあつて、夜中も不審者がいないかを警戒する深夜番があつた。誰かわからぬ者があつたら「誰だ？ 所属隊・姓名を名のれ！」と問いたたすことになつてた。それを「スイカ（誰何）！」という。即座に所属隊名・班名、自分の姓名を答えなければ「ズドン」軍隊というところ、スイカだなんて聞き慣れない漢語を使うのが好きだつたようだ。夕方、薄暗くなつて《誰だろう、そこにいるのは？》がわかりにくくなつた時間帯を《たそがれ時》と名付けた《誰そ？ 彼は？》。似た言葉に《かわたれ時》というのもある。各自考えてみてくたさい。

## 徳

字形からすると《まっすぐに行く》である。「行く」は「人生を生きる」の意でもあり《①品性として先天的にあるいは後天的に身に得ているもの。特に、その中の正しく良いもの。②品性を向上させるために人の修得すべきもの。③そのものに備わっている特性。④めぐみ⑤トクとする（恩に感じる）⑥ありがたい（徳政Ⅱ借金棒引き）…以下略。その徳によつて世を治めようというのが徳治主義。まさに理想論だ。世には「悪徳」という言葉もある。「悪徳の栄え」などという現実も部分的には存在する。【つるかみ・かんじ／人吉市】

冷やかな感情をもって眺め軽蔑していた。

「俺は、意地でも拾わんぞ」と心に誓つたものだった。

でも、小学2年生の子供どもの、本当は僕もみんなと同じようにチューインガムやチョコレートが欲しかったのだと思う。

そして、そんな日にかぎつて、家に帰ると、いつものように、和裁用の長い裁ち台の端に母と斜向（はすむ）かに座り、必死になつて、国語の書き取りや、算数の計算をしたものだった。

母は、何かあつたのだろうか、と察知していたと思われたが、何も言わずに何時ものように黙々とお針仕事に精だしているのだった。

「チクシヨ、チクシヨ」

多分、声に出してはいなかったが、雰囲気を感じてか、お針仕事に一段落したのか、ふと、母が眼なじりをあげて、僕に何か語りかけようとしたのだった。

僕はなんだか、気恥ずかしくなつてしまい、拳でゴシゴシと目を擦ると、無理に母に笑顔を送つたのだった。

算数のノートは何時の間にか落とした涙のシミでくしゃくしゃになつてた。

「タアちゃん、ごめんばつてん、肩をトントンしてね」

「うん、良かよ。にきつと（ちよつと）だけばい」

丁度宿題も終わつた。母の後ろに回り、肩をトントンする。

「タアちゃんも、本当は、欲しかったのねえ」

僕の心はどつくに読まれていたんだ。一人興奮していたのが何となく気恥ずかしくなつて、ぼくはついトントンの拳に力が入つてしまった。

「気持ちの良かあ、ばつてん、もうちよつと、やさしく…ね」

「ごめん、力の入つてもうたねえ」

「タアちゃん、算数のテスト、何点だったあ」

「ほら、来たぞ。」

「お母さん、判つてるくせに、100点たいね」

「国語も理科も100点たいね」

「そーお、じゃ、社会はどうだったあ？」

「うーん、本当なことは…90点じやつたと」

「社会も頑張つてね、100点取ろうね」

そう言いながら母はいつものように、コックリ、コックリはじめたのだった。

【おの・たけみ／小児科医院院長、宮崎市大塚町】

# 友恵屋

上村雄一

八代市坂本町坂本地区に鮎の料理屋（旅館）があった。「友恵屋」といった。球磨川随一の鮎料理店として有名であった。花岡伊之作『球磨川案内』（昭和6年7月25日）は、10種類以上の鮎料理を用意できる、しかも、そのすべてが美味しく、その名が広く有名なのは当然だと記した。

友恵屋を開いたのは東京神田生まれの村田伊津子。明治44年開業。肥薩線開通の3年後である。伊津子が坂本を開業地として選択した理由は不明だが、肥薩線の開業が

その切っ掛けになったのは確かだろう。花岡によれば当時は、球磨川流域では、鮎といえば塩焼と煮付程度の料理法しか知らなかったという。伊津子はそれを、日本料理の他に西洋料理、中国料理の方法も採り入れたとのこと。固定観念にとらわれることなく、素材（鮎）に合わせて各種の料理法を駆使する柔軟な思考力が彼女にはあったようである。文字にすれば難しくないように見えるが、鮎を商品として提供できるだけの西洋料理にし、中華料理にしたのである。素材をみる確か

な目と技術力を彼女は持っていたのだ。それだけでなく果物や漬物にも配慮したという。

そのような天才的料理人が、坂本という田舎にやってくる可能性は今後もあるだろうか。「よそ者・馬鹿者・若者」と言う。凡庸な言葉になっているほど使われている。伊津子をみていると、この格言が自然に浮かんでくる。一人の人間が、一人の女性が、一人のよそ者が球磨川流域の鮎料理文化を変え、その名声を球磨川流域全体に広げた。そのような「天才的よそ者」の登場を期待したくもなる。その時がくるかもしれないと思う。伊津子のような人物が登場すれば、状況はたしかに一挙に変わるだろう。しかし、そうした淡い望みをいだきつつけて

もなにも始まらない。できることから始めるしかない。

友恵屋は、商売環境にもめぐまられていた。近くに製紙工場があった。坂本は栄えていた。製紙工場の接待場所になっただけでなく、工場従

業員の結婚披露宴の会場、法事の場所として利用された。何度か同旅館に行っただけでなく、掃除が行き届き、光沢の床が記憶に残っている。上品な盛り付け料理であった。伊津子から4代目の当主にお会い

し、50年近く前の様子をうかがった。4代目は藤本小学校の後輩にあたる。懐かしい思い出話になった。閉店の頃には、塩焼きと田楽の2種類の鮎料理になっていたようである。田楽は同屋の秘伝の味噌タレで作った。その味は格別で、現在でも伝説になっている。果物はバナナをだしていたようだ。荒瀬ダム、瀬戸石ダムが建設されたのちは、川辺川の鮎を利用していた。川辺川の鮎はその日に捕れたもので、一番列車で坂本まで運び、それを直ぐに調理した。昭和41年水害をはじめとする大水害にみまわれて、同店は廃業に追い込まれた。

【うえむら・ゆういち／編集主幹】



昭和40年代半ば頃の友恵屋



友恵屋跡（左側の電器店付近）

# もう一つの「明治維新」

—壊滅寸前の仏教を救った僧侶「黙雷」②

富永和信

## 生誕地と幼少青期

黙雷師が誕生した寺は「真宗本願寺派慈光山專照寺」という。山口市徳地と周南市四熊の境界の山に囲まれた辺鄙な集落で、現在は周南市峠が地名である。藩政時代は周防国佐波郡徳地宰判升谷村と呼ばれていた。

專照寺の開基は毛利輝元の家臣菅田政五郎で、関ヶ原の戦の後、慶長九年（一六〇四）。広島安芸から萩に移封された輝元公に随伴する途中、当地升谷に留まり、その地を治めた。

先の妙蓮寺からは寺務をも果たさぬ不義理を理由に解縁放逐の結果となる。

しかしこの不遇の時期こそ彼の天賦の素質に加えて、外的刺激によって向学心（修学心）がマグマの如く湧きあがってきたに違いない。

その後慶応二年（一八六六）、同郷島地の妙誓寺の養子となり、コズエと結婚。長男俊雄をもつける。姓を「島地」と改め、当寺の住職となるが、自分の仏務を果たさなく当時の荒廃していく仏教の護持再興のため

とされる。政五郎はその後、浄土真宗の教えに深く感銘を受け、法門に帰依、出家して寺を建立し、專照寺とした。当寺創立に当たり、萩藩二代藩主毛利秀就公より同藩由縁の「二文字三つ星」を賜り、現在も同寺の寺紋となっている。

かような山奥に存する小さな寺ではあるが、由緒ある格式の高い寺である。

黙雷師は、天保九年（一八三九）、当時十一世職円隋と妻カメの四男として生まれた。八人兄弟のうち兄

身を挺していくのである。

## 藩の宗教政策批判と仏僧教育

当時、長洲藩も他藩の例にもれず大きな財政難に陥っていた。この立て直しを任された重臣村田清風は、財政再建のため大鉦を振るって様々な施策を断行する。その一環として槍玉にあがったのが仏教制度改革、すなわち火葬祭の禁止令であった。

黙雷はこの藩令に対して直ちに「葬送論」をまとめ、命懸けで藩政批判を展開。と同時にこの仏法を護持するためにはまず、仏僧自らが世俗に走る身の乱れを正し、仏法本来の護法に徹しなければならぬと、慶応三年（一八六七）年に周防大島覚法寺の大州鉄然師たちと相ばかり、「真宗僧風儀改正書」を藩に提言し

円諦（のち十二世住職）以外は皆早逝している。幼名は謙馳で、後に黙雷に改め、雨田縮堂の号を持つ。幼くして父円隋から正信、和讃、三部経などを修める。

九歳にして佐波郡の右田郷の乗円寺錦園塾に入塾して、漢籍、儒教を修学。

嘉永二年（一八四九）、十二歳のとき徳地・妙蓮寺の養嗣となり、幼くして養父住職に代わって法要寺務を勤めたというから非凡なる才能の持ち主であったのだろう。

安政四年（一八五七）、妙蓮寺の反対を押し切って九州肥後山鹿の光照寺・原口針水の累世覺学舎に遊学、貧困克己の修業を積み、文久元年（一八六一）、帰郷。この九州遊学で大きく成長することになるが、養嗣

て採択され、萩の清光寺に「改正局と教育処」が設置された。

その結果、黙雷は当所の初代責任講師となる。

幕末激動の時代とはいえ、山深い末寺の一介の若僧の提言の採択や、その改革教育責任者に拔擢されることなど異例中の異例である。この一事を見ても長州藩の明治維新に見られる革新的な藩政方針の一端を伺うことができる。

黙雷は、この藩政改革を起点としてわが国の仏教の危機を救うための宗教改革、つまり真宗本山の建て直しと、さらに維新政府の宗教政策の軌道修正、すなわち仏法護持のための活動を始めるのである。

【とみなが・かずのぶ／山口市】



島地黙雷  
(1838年～1911年)  
天保9年～明治44年

# 倉敷便り

27

絵と文／原田正史

## 第二回津軽紀行 ④

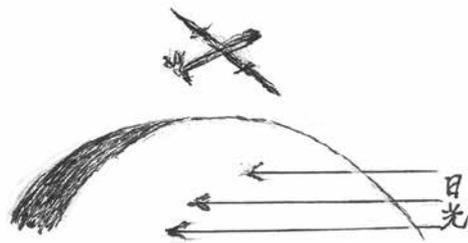
平成三十年十一月三日午後五時プロペラ機は大阪伊丹空港を目ざして宵闇迫る青森空港を飛び立ちました。飛行時間は約二時間です。

私の搭乗回数は僅かなものですが、それでも日没時から始まる夜間飛行は初めての経験です。これは夜間飛行とは違うのですが、昼と夜とを同時に見るという面白い光景に遭遇したことがあったので、ついでに書き記しておくことにします。それは、飛行機が北極上空にさしかかった時のことでした。時刻は午後三時頃のこと

ことのない異常な大きさの二つの星が強い光を放って瞬いていました。これは太陽が一番近い星、すなわち水星です。低い角度で、斜めに入る光の異常な屈折の関係によるものでしょうか、私には正直なところ鶏卵ほどの大きさに見えたのです。快晴の空に太陽が沈み、その余映が地平線上に横に広がり、一番下に赤、その上に桃、その上に薄い青、その上に青と縞模様となって重なります。

五時三十分、赤が次第に薄れて細くなりました。プロペラ機は、日本の海岸沿いを飛行します。地上に目をやると暗闇の中に点状の強い光が、所々に、次々に見えます。海岸沿いに設置されている灯台の光の様です。ある筈の家などの光は全く見えません。地平線上の赤は細くなり、青暗い空が広がります。五時五十三

とだったと思います。何気なく下方を見た私は、意外な光景を見て愕然としました。それは、飛行機の進行方向の右側にあつた太陽の光が、右



分、赤は完全に消え、青黒い空だけとなりました。六時、暗い夜空の直下に、初めて町の明かりが見えました。六時七分、再び直下に大都市の明かりが広がります。機内放送が名古屋上空を飛行中と告げます。乱気流で機体はかなり激しく揺れましたが、一回だけで済みました。名古屋からは伊勢湾上空を海岸沿いに進みます。やがて伊勢湾を横切り、鈴鹿山脈を越えて、奈良盆地に入りま

から左へ差し込んでいるために、地球の右半分は光が当たり昼なのに、左半分は光が当たらず夜なのです。これは飛行機が地球の真上を飛んでいることから、昼と夜を同時に見ることが出来るのです。もし飛行機が進行方向を左側にずらすと日陰に入り、夜間飛行が始まることになるのです。周辺の友人たちに面白いものが見られると教えたら、全員が賛嘆の声を上げ、珍しいものを見せてくれて有難うと、感謝してくれました。現在は空路が変更されて北極上空を飛ばず、このような光景は見られなくなったようです。

今回の座席は左側中央部の窓側でした。プロペラ機は旋回しながら次第に高度を上げて行きます。その時、日没近くの北側の空に、今まで見た

と共にプロペラ機は午後七時五分、大阪伊丹空港に着陸しました。

伊丹空港では新幹線で夕食をとるため、売店で柿の葉鮓を求めました。実は往路でも、この食堂で昼食をとったのですが、注文したのはエビとカキのフライであり、ワカメの味噌汁と山盛りのキャベツのみじん切りに、漬け物が添えられたものでした。私にとつては久しぶりに味わう豪華なものでしたが、出発までの時間が僅かばかりしかなく、時計を睨みながらの食事でしたから味を楽しむような余裕はなく、ひたすら押し込むだけの味気ないものとなりました。

空港からは専用のバスで新大阪駅に向かいます。この区間の空港周辺は、ビルと一戸建ての家が混在する地域で、かなり樹木が目立つ大阪ら

## 外来語から学ぶ英単語 (36) …… 藤原 宏

### ウィットとユーモア・ワイズとクレバー wit humor wise clever

「wit (ウィット)、知力・分別・機知・機転」と「wise (ワイズ)、賢い・知恵がある・分別のある・慎重な・博学の」は同根で、語源は印欧語根 **weid** (見る) となっています。「見る→知る→知力・分別」と意味が転化したようです。309の「**video・vision・visual・view・visa・Veda**」とも関連します。

「**humor・humour** (ヒューマー)、ユーモア・こっけい・面白おかしい茶目っ気」は、「**humid** (ヒューミッド)、湿っている」と同根で、体液が原義です。**wit** が知的なおかしみをいうのに対して、**humor** は気分的、情的なおかしみや、思いやりの込められたおかしみをいいます。

一方、**wise** が深い経験からくる賢さを表すのに対し、**clever** (クレバー) は、頭の回転が早く、手先が器用で、物事の処理が表面的に巧みなことを指します。

「**clockwise** (クロックワイズ)、時計回りに」の「**wise**」は、「方法・方向」を表す副詞接尾辞ですが、語源的には **wit** と同根です。同じく「方法・方向」を表す「**ways** (ウェイズ)」と混同されたと考えられています。

(403)



— 辺野古埋め立て反対の声、聞くべし —

沖縄県で行われた米軍の新基地建設反対 43万 4273 票。投票率 71.74% の圧倒的多数の反対。デニー知事は日米政府に報告。それでも工事を続けるとのこと。

つづきの…  
げっかん・ぎびょう

しくない所です。それに対する駅周辺は、緑に縁の無い大阪らしい市街地です。空港周辺を昼間通ると、バスを走る道路の右側を並走する道路の向かい側に小さな店が並んでいます。店の裏手は小さな崖で、大きな店を造るだけの敷地がないのです。薄汚い店には人気はなく、道路は時々車が走るだけで、歩いている人もいません。ところが夜になると店には一斉に灯がともり、昼間気がつかなかった装飾が店頭を彩り、人の往来が激しくなって活気を呈するのです。店の種類も豊富で、焼き鳥・ラーメン・せんべい・饅頭・パチンコ・キャバレー・理容店と、何でも御座れといった所であり昼、死んでいた町が夜になると一変して生き返るといいます。正に大阪そのものと言える町になるのです。

新大阪駅で新幹線に乗りし、ここで柿の葉鮎の夕食となりました。旅行好きの倉敷市西田の小原氏に、柿の葉鮎のことを尋ねたら、柿の葉鮎の本場は奈良県の桜で有名な吉野だと教えてくれました。更に柿の葉鮎に本来的に使われてきたのは鯖であるとのことでした。殺菌作用もあるらしい、特殊な方法で造られたと思われる半乾きの柿の葉を開くと、程よい塩加減の鯖鮎と鮎鮎が出てきました。今回は、伊丹空港の時とは違い、時間がたつぷりある新幹線の中の食事ですから、心おきなく柿の葉鮎を味わうことが出来ました。岡山駅で新幹線を降り、宇野線で倉敷市茶屋町駅に向かいます。茶屋町駅では、迎えの車が見当たらず、タクシード真つ暗な茶屋町街道を走りました。愛犬二匹の歓迎の声に迎えられて帯

高の自宅に到着したのは当然のことながら、前回と同じ午後十時でした。それにしても九十一歳という高齢であり、かなりの歩行が必要なにもかかわらず、本州最北端の津軽の地を年間二回も訪れることが出来たのは、若い時から八十代まで、調査のために山路を歩み続けて来たために足腰が強くなったからだと言えるとしても、やはり清兵衛殿を始めとする数万数十万にも及ぶであろう相良隠れキリシタンの人たちの御加護の賜である<sup>たまもの</sup>と信じて疑いません。

春に来て 秋にまた来し津軽路は  
青き空もて我を迎ゆる

【はらだ・まさふみ／日本地質学会会員、倉敷市】

## 血敷原 (チシキハル)

— 錦町・相良村 —

高原<sup>たかんばる</sup>台地の西南端、旧海軍飛行場のあった付近がチシキハルで、東側は錦町木上字知敷原、西側は相良村柳瀬字千舗原である。用字は違いが同じ台地の地名であり、訓も同じなので二つのチシキハルは同じ事柄の表現であることは間違いない。

一般に血敷原と書かれ、鎌倉時代に相良氏と平河氏が血戦し、原野の草木が血の色に染まったところからその名がある、と伝承されてきた。『球

磨郡誌』は木上小学校郷土誌を引用して次のように記す。(要旨)

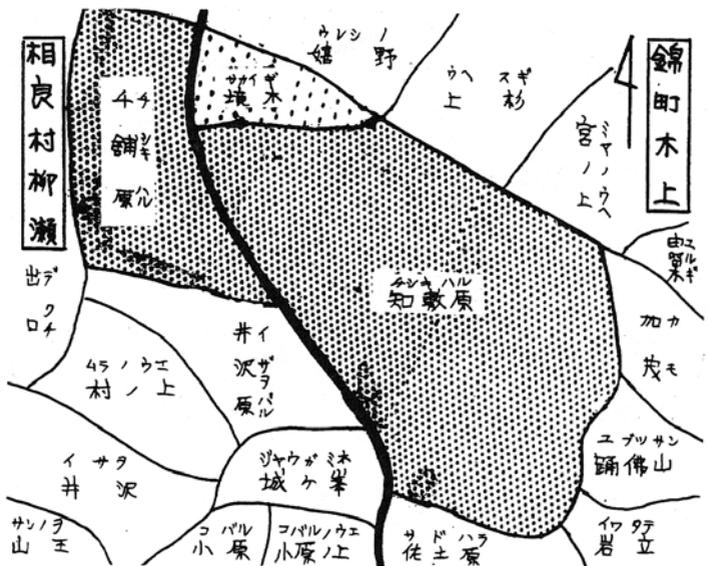
「血敷原 本村の西南方川村大字柳瀬との境にある廣漠たる原野で、木上城々主平河右衛門義高と人吉城主相良長頼公が建長の頃(1252年ごろ)此所で戦い、両軍奮戦激闘死山血河時ならぬ血しぶきに野草の露も色づいて一面紅の花で咲かせた。現在でもその野原、即ち由留木南の台地を血敷原と言っている」

平河・相良勢決闘の古戦場にちなんで血敷原の地名が付いたとすれば、その以前の地名は何であったのだろうか。両軍が死闘するほどだから要

【おことわり】本連載は平成6年から9年にかけて執筆されたものの復刻版で、合併前の町村名をそのまま使用しています。

害の地であったわけで、そこが名無し地であったはずがない。血敷原が古戦場跡か否かは別にして相良入国前からチシキハルという地名は存在したと思われる。

血敷原の地名説話と似たような伝承が玉名郡三加和町にも残っている。「国衆一揆で知られる和仁氏は田中城に籠もつて戦い、秀吉勢の大群に囲まれて戦死するが、子女らは城下の川淵に入水し、そこを和仁淵という。また、城の近くの金敷原(カナシキバル)という地名は和仁一族の悲惨な最後にちなんで「悲しき原」と呼ばれていたのが金敷原と書かれる



ようになったのである」と。

三加和町の字図を見ると、大字和仁と大字西吉地の境に、それぞれの字金敷原がある。木上の知敷原、柳瀬の千舗原(現行字名は千敷原)も向かい合った字名であり、木上側の知敷原には字境木(サカイギ)が隣接しており、ここが境界地であることを宣言する格好になっている。

境界地名としてのチシキハルとカナシキバルの解明手がかりは敷(シキ、舗は敷と同じ)かもしれない。敷は和訓シキ、漢音フである。敷をフと読む熟

語は鉄道敷設(ふせつ)ぐらいであるが、字音の共通から生(ふ)、原(ふ)にも通用された。『大言海』は茅原(チフ)、律原(ムグラフ)、殖生(ハニフ)、芝生(シバフ)などの用例をあげている。

これらの語法を援用して千敷を読むみかえると、チフ、即ち茅原であり、境界入会地の意になる。また金敷はカナフ、即ち叶(狩野・加納など)となり、地名としては自由にできる土地、共用地の表現となる。以上の知識は悲しきことであろうか。

【うえむら・しげじ/宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

# 小説・相良清兵衛

15

山口啓二

三十年前の天正九（一五八二）年十一月二十五日、御船城の甲斐宗運は家臣からの報告を受けていた。

「なんと、相良がこの御船に攻めて来ると申すのか。相良とは先々代より誓紙をもつて互いに助け合う、としておるのじゃぞ。先般もその違わぬ誓いを再度交わしたというのに、義陽殿が薩摩の先鋒などそんなはずはあるまい。ましてや薩摩の北進を数百年も阻んで来られたのじゃ。その相良がわしを敵に廻すと言うのか」

この一帯を治める御船の甲斐宗運は相良氏の動向に驚いた。既に百年以上も前から盟約を結んでいたからであった。

「は、間違いはござりませぬ。八代に放つた物見の知らせにございます。相良は既に着々と事を進めている様子に。どうも後ろには先ごろ水俣を手中にした島津が付いているようにございます。ただ、相良殿は御船を攻める振りをなされるおつもりだけとの噂も御座りますが、確たることは…」

その頃の宗運は長年の大友宗麟との盟約を破棄し、佐賀の龍

「やはり相良義陽はこの儂に爾向かうと言うのじゃな。これも島津兄弟の策略か。いいか皆の者、相良の動きをよくよく監視し、その動きを逐一儂に報告せよ」

「御意。仰せの通りおそらくは島津義久一味の企てでございませぬ。相良の進軍は間違ひござりませぬ」

それでも義陽公は甲斐宗運との戦いは望んでおらず、先に出發させた将・東左京進に精銳の兵十五百八十余りを付け、堅志田と甲佐の山城を落とさせ集落を焼き討ちし、一戦は交えず歸路に着くよう指示していた。よつて義陽公に付くのは老兵や足輕がほとんどとなった。

十二月一日昼前、物見の者から宗運のところへ相良の動きが伝わった。

「申し上げます。相良殿今朝早くに八代を出陣なされ、こちらに向かつております。その数およそ八百程。相良軍は島津義久の先鋒と思われませんが、どうも老兵や足輕の如きと。恐らく娑婆ヶ峰から響野原辺りを通つて参る所存かとみられます。さすれば先に五百程の精銳部隊が出兵、甲佐方面へ向か

【前回までのあらすじ】清兵衛は島津松平家久公と以前から交流があったが、自身が十四歳で初陣を果たした島津による水俣城を攻められた三十年以上も前の事を思い出していた。

造寺に人質を送つて同盟を結んでいた。義陽公も宗運と誓紙を交わしていたのだが、このたびも戦うのをためらい宗運と裏の策略をすすめ、新たに再度密約を結んだのだ。甲斐の重臣達はそれこそが薩摩と相良の陰謀と受け取った。さらにその密約は薩摩に洩れ、怒つた島津義久は義陽公に直ちに甲斐宗運を攻撃せよと厳命し、遂にこの度の出陣となったのである。義陽公は先發隊に東左京進を大将として五百余りの精銳で堅志田と甲佐の山城を攻めさせ、自身は急ごしらえの八代の老卒や小兵八百人余りを引き連れ御船に陣を構える甲斐攻めを決した。島津にとつては相良、甲斐どちらが潰れても利になる話であった。しかし相良家は甲斐氏とは先々代の頃から親交を深めており、義陽公はこの戦いはどうにでも避けたかった。

たとの知らせにございます」

折りしも師走の初日、義陽公は自らが大将となりみぞれ交じりの寒いな夜を徹して進軍、いくつかの峠を越え川を渡り谷を進み、そこで一首詠んだ。

『守山の 下ろす風のはげしくて  
明しかねたる雉子の聲々』

娑婆ヶ峰の麓を抜け早めの朝食をとり、響野原を目指すことにした。軍を率いる隊將蓑田三浦介は娑婆ヶ峰のすそ野で朝食を取る折り、

『言語道断 又も越えなん 娑婆ヶ峰  
ながらへつべき 命あるとは』

と詠んだ。みぞれは夜明けには雪へと変わり、特有の濃い霧がさらに深く出て、辺りの眺望はほとんど不可能であった。

宗運には八代に放つていた物見から相良の動きとともに、『相良は薩摩と新たな密約を結んでいる』と薩摩が広げた噂が耳に入ってきた。そしてすでに娑婆ヶ峰を越えたことも。それに甲佐と堅志田の山城が相良軍別働隊によって焼き尽くされ、多くの農民が家を失ったことも告げられた。よもや相良軍の攻撃は

## ■主な登場人物

- 相良清兵衛（犬童頼兄・軍七）＝相良家 家老
- 相良義陽（頼房）＝相良家 第18代当主
- 甲斐宗運（親直）＝阿蘇氏の家臣

ないものと確信していた宗運であったが、状況は既に変わってしまった。

昼を前にしてもなお霧深い響野原に着いた義陽公は、ここで陣を構えることとした。

「殿、ここはご覧の通りの平地。その上この時期は風が強いうえにご覧の通り霧が深いところでございます。周りになにも障害が無い場所に陣を構えるのはまことに危険ではございませうまいか」

このあたりに詳しい高津賀城主高津賀上野介は相良義陽公に進言した。

「どうでございます。この深い霧の中、開けた原野で敵に攻められてはひとたまりもございませぬ。どうかもう少し奥の谷間に陣を張っては如何に御座りませう」

蓑田三浦介もすかさずそう進言した。すると義陽公は、

「さもあろうが、狭い場所や山陰に陣を構えたとあれば余は臆病者とみられ末代までの恥じや。それに余は宗運殿とまことの戦いをいたすつもりはない。左京進が事をうまく運ばずぐに退散するゆえ、此度はここに陣を張らうぞ」

四方の要所に哨兵を配置し、事あるときには知らせる手はず

を整え、ここに陣幕を張った。

軍勢の将・蓑田三浦介は、たとえ宗運との密約があるとはいえ、精銳は東左京進の軍勢に付かせ、義陽公率いる本隊は小姓や足軽、老兵がほとんどの頼りなきに嘆きながらも、主君である義陽公の命に従うほかなかった。

その頃義陽公の軍勢が視界の開けた響野原であえて陣を設けたと知らせを受けた甲斐宗運は、ついに陣を決意した。

堅志田の守将西村金吾は早馬で甲斐宗運に向けて相良軍の襲撃を告げ、速やかな備えをするよう進言した。さらにこれこそが島津軍の先鋒間違いなしの報告をした。先発隊の東左京進は守将西村金吾らを討ち取ったのち勢いに乗じ甲佐城を陥れていた。堅志田と甲佐の館や村々は左京進らによつて大方焼き尽くされ、さらに追つてきた松尾城代伊津野山城はじめ百七十名程の甲佐勢を討ち取った。戦いは出来る限りするという敵命であったが、前後から攻められたため仕方がなかった。みぞれ混じりの冷たい雨が降る中の戦であった。西村金吾はじめ敵九将の首と戦況は早馬で響野原の義陽公の元へ届けられた。

みぞれは降り続き深い霧に覆われ、相良勢はますます寒さが身に染みていた。早馬により堅志田と甲佐の山城を落とし、敵将の首を持参した左京進たちの手柄はすぐに報告され、どつと

そのほとんどが老兵や足軽である事もつかんでいた。それでも宗運はまだ迷っていた。相良軍北上のすぐ前に交わした義陽公との密約を信じたかった。

その誓いを破り島津が後ろに控えているからには、この戦いに勝ち目はないだろうと思案しながらも馬を進めた。

甲斐宗運の軍勢は響野原のすぐ近くまで来ていた。昼近くになるとまた濃い霧が覆ってきて、これが奇しくも宗運に味方したのだ。宗運が構えた陣は寒さで暖をとる相良武士たちの焚き火がかすかに見える場所であった。宗運の軍は濃い霧の中を、物音を立てず相良の陣の北方に近づいた。そして相良陣の周りを探させたが、以外にも島津軍の姿は一人もなかった。相良兵はまだその事に全く気付いていなかった。すぐさま宗運は火繩の用意を命じ、弓の射手も槍も準備を整えさせた。すると辺りを一面覆っていた霧がすつと薄くなった。薩摩の兵が居ないことを確信した宗運は、

「よし、今なら勝てる。それっ！」

宗運の合図に先陣の田代快尊がこの時とばかり相良の陣中に鉄砲を放った。決戦開始の合図だった。

【やまぐち・けいじ／人吉市】

歓声が沸いた。その頃、すでに宇土を領地としていた薩軍より響野原の本陣に酒樽が届いていた。三浦介は早くここを退いて安全な場所まで移動すべきだと再度進言したが、寒さに震えている兵士たちを見ていた義陽公は、

「それも一理じゃが、この寒さでは兵もさぞつらからう。火を焚いて温まり、先ずは勝利を祝つて皆にこの酒を振る舞い、少し早いけど昼にいたそう。それから撤退じゃ」

そろそろ霧も晴れ始めたが、響野原の北一帯は湿地帯のため風が一段と冷たく感じた。多くの兵は鎧兜を外し、起こした火で冷めた体を暖め、ふるまい酒も入り所々で笑い声も聞こえた。

義陽公はこども一首詠んだ。

『老いの坂 下るも憂しと 思うなよ』

登りも果てぬ 人もこそあれ』

宗運は予期していたが、やはり相良は薩摩と手を組んだかた大いに案じた。これまで薩摩の進軍を喰い止めていたのは、相良氏が球磨と芦北水俣方面を征していたからであったが、水俣城を奪われた相良義陽は遂に島津の軍門に降つたのであろうと確信した。義陽公に従う兵が僅かに八百余りであること、また

# 打撃の神様からの贈り物

前田康江

昭和十四年生まれの兄は、熊本工業高校の野球部員でした。おそらく、同窓先輩の川上哲治選手に憧れての入部だったのでしょう。

ただ入学したのが戦後十年、しかもかの「熊本大水害」の三年後でしたので、市民生活も学校も復興のまつただ中、もしかしたら「野球どころか」という風潮だったのかも。

三歳年下の私はまだ中学生でしたが、その「大変さ」は、傍目にも涙ぐましいほどで、「そんなにしてまで」と思うこともしばしばでした。兄の話では当時の野球部員は二〇〇名以上もいて、一年生など年から年中球拾いばかり。それどころか、ボールの繕い（つくろい）が日常茶飯事、授業中にも先生の目を盗んで。もちろん家にも持ち帰り夜遅くまでやっていました。

二年生になりようやくバッターボックスに立てはしたスポーツまでが必要でした。その出発の時にスック靴を履いていた兄を気の毒がられた校長先生が、「わしがつば踏んで行きなはり」と、ご自分の革靴を替えて下さった。ただしそれともかなりの「年季もの」で、やがて靴の先端から足指が覗き始めたとか。

かくてその翌三十三年四月には「第30回春の選抜高校野球大会」に、熊本県から仲良く済々黌高校と共に出場。優勝は済々黌でしたが、影になり日向になって応援して下さった川上選手に対して、若干の恩返しができたものと思います。弾丸ライナーと背番号16で全国のファンを熱狂させてくれた川上哲治選手は、この年に現役引退されたのでした。

先に人吉で行なわれた「郷土の偉人たちに学ぶ会」で川上選手の甥にあられる元済々黌高校の校長先生であった川上修治先生のご講話を聴きながら、ついつい六十数年前のことを思い出しつつ、駄文を綴らせていただきました。神様のご冥福を祈りながら。

【まえだ・やすえ／人吉市】

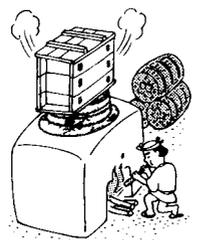
の、バットは竹。まっ芯にでも当たろうものなら、それこそ電流に直撃されたような痛みが。いかにおんポロとは申せ硬球だからたまらない。またその打球を受けるグローブやミットなども推して知るべし、まさに、「つぎはぎ」だらけの代物でした。

質量ともに恵まれた今の時代からすれば、まるで誇張されたマンガの世界のような話ですが、昭和三〇年代の初頭はこの野球部でも似たようなものだったのではないでしょうか。

そうした中に届き始めたのです、川上選手からの贈り物が。ボールやバット、グローブやミットなど次々と。もつともそれらは新品ではなく、巨人軍の選手たちの使い古しではありましたが、そうであればあるほど熊工野球部員たちの心を打ち、その成果はカーンという打球の響きとなって表れ始めたのでした。

これに勢いづいた選手たちは、遂に昭和三十二年には「九州高校野球連盟」の沖縄大会に出場し、優勝したのでした。この時は済々黌五人、熊工高四人、鹿児島工高三人、福岡工高三人、鏡西南一人、計十六名のメンバー。

当時の沖縄はまだ日本に復帰前の「外国」で、当然パ



**匠の枝**

◆納豆みそ (お徳用) 300円 (税抜)

◆納豆みそ 477円 (税抜)



(だし入り万能しょうゆ)

**御膳醤油**

◆玉子かけご飯  
◆豆腐  
◆お刺身に

300ml 650円 (税抜)



◆みそ煎餅 477円 (税抜)

九州和食 蔵めぐり

人吉散策コース

**みそ・しょうゆ蔵**

合資会社  
**丸カマ**

**釜田醸造所**

〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16

電話 (0966) 22-3164

FAX (0966) 22-3165

メール info@marukama.co.jp

所長 釜田元嘉  
社長 釜田嘉顯

# お休みどころ通信 ⑤

## 休息とリラククス法

精神科医 興野康也

病院で発達症を持つ子どもたちの診療をしていて最近よく感じるのが、「リラククスが苦手な子どもが多いのでは？」ということ。病院を受診するのは何かの問題（イライラ・対人トラブル・不登校・ゲーム依存など）があるからであり、病状が落ち着かないうちは過度に緊張していたりストレスを抱えていたりして当たり前です。ですが問題を解消しようと1つ1つ関わっていき、最後に現れてくるのが緊張の問題であることがよくあるのです。

不安・緊張・ストレスといったも

ちよつとした家族や同僚・友人・近隣などとの交流で、ホッとしたり慰められたりすることが多いと思えます。ですが対人交流が苦手な子どもの場合、人との関わりでくつろげる

のはうつや身体愁訴に関連しやすく、なかなか治りにくい。大人のうつ病の方がおられたときには、背景にあるストレス（対人関係・家族背景・職場など）を掘り下げてみるのが一般的です。ですが子どもの場合にはイライラやかんしゃく・衝動行為などがおさまらない場合にも、背景にあるストレスを掘り下げてみる必要があります。ゲーム依存についても似たようなことがあり、生活や学習においての不安や緊張のために、ゲームにひたつてしまっていることがあります。

そうすると、治療は必然的に不安

ことがほとんどないのです。特に引きこもりの子どもの場合、人との関わりの経験自体がきわめて少なくなつてしまっています。

ではどうしていけないのでしょうか？ 僕としては、現代がストレス

の時代であることや、ストレス対処が生活上の重要な技術であることを、学校で子どもたちに伝えることが大切だと思えます。現代はストレス対処を学習しないといけない社会状況にあると思つたのです。

インターネットを代表とする科学技術の進展で、人間が知識を頭に詰め込む必要性は軽減しています。機械の導入で肉体労働の負担も以前よりは減ってきているでしょう。ですがそのぶん対人サービスやマネジメント業務が増え、心理的ストレスにさらされる機会は増えていると思うの

や緊張をどう緩和させるかを含みます。ゲームやネット・動画などは依存しやすいですから、それ以外にもリラククス法を探してもらっています。ですがおもしろいのは、リラククス法は人それぞれであり、一律に決められないのです。音楽が好きな人もいれば、漫画がいい人もいます。折り紙、絵を描くこと、散歩、スポーツ、小物作り、おしゃべりなどさまざまです。その子に合ったやり方を、その子と家族と支援者が、いつしよにいていねいに探していくしかないのです。

自分に合ったリラククス法をなるべくたくさん見つけてもらうことが、大人になってからのストレス対処に役立ちます。発達症の子どもたちがかわいそうなのは、対人交流を苦手とする子が多いことです。一般的には

です。ピリピリしたりイライラしたり、精神的に追い詰められる機会は珍しくなく、それが精神科受診者の増加につながっているのではと推測されます。

現代における富とは何かと考えると、リラククスできたり、無心になれるり、芯からくつろげる体験にあるのかもかもしれません。精神科の病院に求められる役割のなかでも、「ホッとできる場の提供」が大きくなくなってきている気がします。自分に合った「お休みどころ」を見つけたというのが、おそらく現代人のニーズなのでしょう。出会った人にくつろいでもらえる技術を僕も探していきたいと思えます。

【おきの・やすなり／人吉市】



大根が抜けて喜ぶ娘のしずく  
(2月9日、鹿児島市観光農業公園グリーンファームにて)

# 稲留三郎の世界 ⑪

## 年中行事三月の巻



前田一洋

### 三月三日節句

#### 節句礼女のごとは

客「おうちいござんすか」

亭「あいござんし。さあまあ、こつ

ちいお上がりなさんし」と言え、客

「ご免ください」と言うて座にす

われば、タバコ盆、茶を出して、フ

ッ餅白餅菱形の餅二つ菓子盆に盛り

て出すと「今日は初雛お節句お祝い

なさんして、お目出とう申し上げも

す」。客「これはお祝いのしるしまで

差し上げます」と重箱の餅を差し出

せば、亭「これはまあ有難うござん

す」、ちゅうて祝いのことば済む。客

「どうぞ、おうつりを下さんせ」、亭

「だんだん、有難うござんした。皆

様に宜しく申して下さい」

近所か親戚のご夫人の来訪か、何

となく現代の義理チョコみたいな感じ

がしないでも。

### 三月十六日

#### お嶽みやり 新寺参り

阿亭(父) 阿母(母) が言うには、

「われ共一六日に参りゃれば、着物

ども縫うて仕舞はい。白か切れで脚

ちゅうて、見る姉どもが尻つぶつて

裸足イ足が痛かつつろろ」

「まあ酒迎えに焼酎ばしも沸かそつや」

「今戻つたばい」

「こらー早やー事じやつた、足が痛

かつつろろ」 「いきゃーおきつろろござ

んしつろろ、茶ばしも飲みやれ」 「酒

迎えに何だりござんせんども、一つお

上がり下さんせ」 「これは有難うござ

んす。こらあ今日の土産はい。起米(オ

コシ) 一つなれども」 「これはお土産

下さんすか有難うござんす」 「さアま

ちつたア飲うでいきやれ」 「まちつたア

よかたい」

「こらこら、もうさりむのうし

ちやーおるみやーや。べんべんとし

ちやーおるな」と杖を突き、つら真つ

赤やなつて、よろよろして立ち別るる

その言葉に、「ご苦労さんでござんし

た、ご辛勞」 「それじゃーだんだん」。

#### 解説1

「やかむきやー」にこころ

往時の「お嶽さん(市房神社)参り

り」は往復とも徒歩であり、夜は神

社周辺に野宿。男女の組に別れ「歌

垣」まであったという。その帰りを

村境まで出迎え、酒肴や握り飯さら

には草履まで進呈していたのが「酒

迎え」であり、「境迎え」と書くのが

本来かも。

#### 解説2

#### お嶽さんみやりと猫寺の縁

「湯山地頭の佐渡守宗昌とその弟、

普門寺住職の盛誉が人吉の相良家に

謀反を企てておる」との噂が広がり、

「即刻、討ち果たせ」との藩命。と

ころがそれはガセネタであることが

判明。直ちに「討ち方止め」の急使

が立てられたのだが、その使者犬童

絆の紐、帯、つぶりかけ(帽子)、手  
ねげー、へこは新イかと良かどに替え  
やい。傘は黒傘、コウブリ傘が今の  
流行たい。「早ううたつて、みんな  
ちえぬうづ来たばい」「まあ、早う来  
やった」「さあ早う仕舞はい、なしきや  
早よ仕舞わんか、べんべん(ぐずぐず)  
しちやーおるな「あた、やかまし」「べ  
んべんしたもん、早ようたつて」ちゅ  
うて、握り飯、お賽銭を風呂敷イ包  
うで渡せば、「それじゃー参りつて来  
もそう」「おお皆さん参りつてござ  
んし」。

♪ 免田の茶屋でドッコイ

「そらそら、堂参り共がひやー戻る

ぞう」「さあ、出て見ゆるや」

♪ お嶽ご参詣とドッコイ、うちや

言うて出たが、嶽はなづけて気なく

さみナイヨーエー

「そらそらドッコイドッコイ

九介が無類の「焼酎くりや」。免田  
や多良木で二びや二ひやとやっている  
うちに、法印盛誉は惨殺。

その恨み心頭に発した盛誉の母親

玖月尼、愛猫玉垂を連れ市房神社に

籠もる。そして、わが指を噛み切つ

て神像に塗り、猫にもネブラせて曰

く。「犯人と相良家に末代まで祟れ

ぞかし」と言い含め、茂間ヶ淵に投

身自殺。

かくて相良の領内には間断無き

天災地変。その怨霊をなだめんと、

二十代藩主の長毎によつて猫寺が建

立された。そして盛誉の命日三月

十六日には、「お嶽参り」のついでに、

猫寺にも参詣してくれるようにと領

民にも懇願され、その心は今に至つ

て伝わっている。

【まあだ・かずひろ／人吉市】

# 奥球磨、湯前町の偉人 那須良輔と北御門二郎 ③

村木正則

## 三、生粋のトルストイアン、北御門二郎 ㊦

教育熱心で教育ママであった母の薦めで二郎さんは二二歳のとき兄と共に熊本中学（現熊本高校）に転校した。以後第五高等学校（現熊本大学）そして一九三三年に東京帝国大学文学部（現東京大学）へと進学していくことになるが、中学高校時代は熊本市内の借家で祖母と同部屋であった。



五高時代の二郎さん

その時「汝の隣人を愛せよ」というイエスの精神の実践者としてのトルストイの名を初めて聞いたのも祖母からであった。二郎さんとトルストイとの劇的な出会いには五高時代の友人宅で見つけたト

ルストイの民話「人は何で生きるか」だった。二郎さんは小学校のころから本の虫であったが、この作品は二郎さんの真の読書への第一歩となった。それは二郎さんが求めている人生の第一義的なものへ触れた初めての作品だったのである。続いて同じ友人宅で「イワンのバカ」を読み「絶対非暴力」の思想に感激した。同時に当時の軍国主義的教育に不信を強めた。あるとき母の紹介で熊本にいる牧師が訪ねてきた。その牧師から「トルストイを読まれるのは結構ですが、まずその前に聖書を読まなければ駄目ではないですか」と諭された。

二郎さんは青年期にマタイ伝に絶大な影響をうけたトルストイ同様聖書は生涯の伴侶となった。「トルストイを読むことで聖書への理解が深まり、聖書を読むことでトルストイへの理解が深まった」と述べている。二郎さん二三歳の東大在学中のとき「正教時報」（ギリシャ正教機関誌）に「学ぶとは何ぞや」という文章が載った。それは「美とは何ぞや、真とは何ぞや、芸術とは何ぞやと深く自問しなければならぬ」という書き出しであった。人生、社会、思想を深く思索した結果、二郎さんは大学の授業に失望した。また、左翼学生中心の学生運動にも幻滅した。

トルストイが官大学を去ったのと同じく二郎さんも人生の本質的問題に向き合うことこそ人生を真に生きることではないかという結論に至った。トルストイに一步でも近づくためにはまずロシア語を学ばなければならない。良さんの友人の紹介で知り合ったイライダ夫人の紹介で昭和二年中国東北部のハルビンに住むエンマ・ミハイロフ夫人を訪ねることにした。ハルビンはロシア人が開拓した街でロシア人（白ロシア人）が多く住んでいた。父は反対、母は無言のままであった。昭和二年六月「トルストイを読むために行く」と言つて家族の反対を振り切つて湯前駅を出発した。見送りに父の姿はなかった。それから二年後の昭和二三年故郷湯前に帰ってきた。その時二郎さんはトルストイアン（＝トルストイ主義者）としての固い信念、つまり権力の支配者に対しては「悪しきをもつて悪に抗しない」、「非暴力、不服従」の精神をもつての帰郷であり、あることを固く決意していた。

それは昭和二三年四月二日に人吉（東小學校）で行われる徴兵検査を拒否することであった。絶対的非暴力を宣言している二郎さんは最大の暴力である戦争には加担できない。徴兵検査当日に出頭しないで兵役拒否の意思表示を

しようと決めていた。そして二郎さんは検査当日失踪することを計画した。そのためまず一七日に鹿児島叔母宅を訪ねた。しかし、そのことを察知した母から叔母宅へ電話がきた。「二日に人吉で徴兵検査があるので二〇日まで湯前に帰れ」ということであった。しかし、二郎さんは鹿児島から湯前には行かず熊本へ向かい市内の友人や叔父宅に泊めてもらった。検査前日二十日朝、目が覚めるとなんと母が目の前に座っていたのである。二郎さんを探して来た母が夜行で熊本に駆けつけたのである。母から「明日は検査受けておくれね」と懇願されやむなく湯前に帰宅することにした。自宅へ着くと今度は父から説得されたが「あくまで兵役を拒否する」と宣言し検査日には出頭しなかった。

ところが翌朝役場から電話があり「今日検査に行ってもらえばいいから」ということであった。二郎さんは二十二日朝母といっしょに徴兵検査場である人吉東小學校に向かった。運命の日が来た。二郎さんは順番で身体測定を受けることになる。その後二郎さんは本来の検査日に出頭していないのでいろいろと詰問されると覚悟していた。ところがそういう素振りがないので二郎さんは自ら進んで担当官

に弁明した。「私が所定の昨日に出頭しなかったのは故意にそうしたのです。」と弁明した。その時横にいた母が「二郎さん」と言って二郎さんの袖を強くひっぱった。二郎さんは母の必死の眼差しに圧倒され次の言葉が出なかった。ところが担当官の尋問は「病院はどこへ通っているか」「家では何をしているかね」「体の具合はいい方かね」等ごく普通の質問をした。二郎さんは完全に予想がはずれた。軽い質問をしてひと通りの検査が終わると、再び徴兵司令官に呼ばれ前に出ると判定が下された。その予期せぬ判定に驚いた。判定は「君は兵役と無関係とする」続けて「もういいからお母さんといっしょに帰りましたまへ」ということになった。二郎さんは複雑な心境になった。どう理解すればよいのか、司令官の個人的温情だったのかそれとも精神異常者扱いにされたのか、二郎さんが反戦主義者ということを担当官が知らないわけはなかったが真相は分からない。二郎さんは日記に記している。「私が生を終る最後の日まで人類から軍隊を駆逐し、一切の暴力や欺瞞と戦うために心を尽くし、霊を尽くし、力を尽くす」、以来二郎さんは兵役拒否をきれいな事としては語らず、あの時の決意を貫き通すことを心に誓った。

昭和一三年兵役を拒否した二郎さんは東大の中退届を済ませ、新たな人生を切り開くために湯前町から隣村の水上村の湯山地区へ移り住んだ。湯山には北御門家の農地があり、その農地を荒岳家が借りて農業を営んでいた。その荒岳家に住み込んで農業に従事することにした。トルストイの作品の中には人間は土から生まれたのだから土へ帰るのが一番自然だという考え方があり、農業が人間として一番基本的なものと確信しての帰農であった。しかしながら二郎さんは、農業は素人であったので荒岳家の三女で二歳年下のヨモが農業の先生役で手取り足取り教えてもらった。二郎さんにとっては理想的な晴耕雨読の生活が始まったのである。そして昭和一六年にヨモと結婚した。子どもは四人できたが、そのうち三人の名前は尊敬する漱石に因んでいる。長女ヒナ子、二女楠緒、長男すすく、三女須磨子の四人であるがヒナ子は早死にした漱石の五女の名、楠緒は漱石と交流があった女流詩人の大塚楠緒子から、すすくは漱石の漱からである。二郎さんは国家主義全盛の時代に漱石の個人主義に強く共感していた。

【むらき・まさのり／川崎市】

## 鶺鴒短歌会

二月詠草

小正月冬の野原に七草をほつかぶりして摘む親子づれ  
冬枯れの木立に響く百舌の声獲物さがして声替えて啼く

守永 和久

八十路過ぎ命のきどみに疲れおりときどき吾にサボタージュの声  
庭先の南京黄櫨の枝落す すつきり伸びて蒼空高く

河内 徹夫

冬最中煮もの鍋もの数を増し落し蓋は乾く間もなし  
初ものの蕨うどなど食卓に夫との朝餉ほのかに春が

中村美喜子

霧深き吾が故郷の太陽はシルバーに栄え月に似たりき  
八十路越へ大きな身体細くなり恋多かりし青春はいずこに

西 武喜

一周忌の夫の法事に集まりく縁者のきずな確かめおりぬ  
南北を国鉄走りにぎわった通学の駅無人の駅に

釜田 操

従妹会八十路すぎでの再会は今迄にない嬉しきおぼけ  
春まぢか雑草の中にふきのとう早速摘みて夕餉の膳に

三原 光代

友からの亡夫との別れの哀しみも優しき声に救われており  
愛犬の死亡知らずに天国へ夫に伝えぬ吾は揺れおり

中原 康子

年の瀬に心通わす年賀状歳を重ねて書く数の減り  
朝霧に視界も薄れし霧のなか登校の子等の浮かび出で来る

橋詰 了一

涙ぐむ妻に理由を尋ねれば優しき子等の介添へ嬉しと  
亡き妻にひと夜ふた夜添い寝しつ遠き想い出語り掛けたり

堀田 英雄

離畢華

●  
春寒料峭の清晨  
茶葉在杯裡旋舞  
〔永田満徳評論〕

初春の早晨還留著冬天的寒冷。作者細細的觀賞茶葉在杯裡緩慢旋轉。面對那溫暖早晨的飲品，作者沉醉於平靜時刻的氛圍甚好。

離畢華

●  
春寒の朝  
茶葉がお茶碗内で旋回している  
〔永田満徳評〕

まだ寒さが残る春浅い朝、お茶の葉が茶碗の中で渦巻いているのを眺めているのであろうか。温かい飲み物を前にして、しばしの安らぎを楽しんでいる雰囲気がいい。

紫澤望

●  
鳳凰樹  
十字路口的迷惘  
〔永田満徳評論〕

畢業時期開花的鳳凰木下，作者正站在十字路口。「十字路」的用詞極佳，穩妥的表達了畢業生正面臨選擇未來方向的情景。

紫澤望

●  
鳳凰の木  
十字路の迷い  
〔永田満徳評〕

卒業期に開花する「鳳凰」の木の下で、十字路に立っている情景。「十字路」という措辞がよく、卒業したばかりで、これからの進路を思い描いていることを表現している。

Angel Tsukimori

●  
熟成の梅酒  
翻動的舊相片  
〔永田満徳評論〕

作者一手梅酒，一手入神的翻閱令他眷念的舊照片。「梅酒」與「舊照片」的兩項對照組合絕妙。作者沉靜的陶醉於片刻的夏夜，此景歷歷在目。

Angel Tsukimori

●  
熟成の梅酒  
めくる古写真  
〔永田満徳評〕

梅酒を片手に古い写真に見入っているのである。「梅酒」と「古写真」との取り合わせがよく、夏の夜のひと時を味わっている様子が読み取れる。

【ながた・みつり／俳人協会会員、熊本市】

前号【くまがわ学習塾㊦の答え】

問1 熊本県内でダムカードを発行しているダム名をあげよ（例：荒瀬ダム）

- ①（立野ダム）
- ②（市房ダム）
- ③（幸野ダム）
- ④（油谷ダム）
- ⑤（船津ダム）

問2 エンブリーについての以下の文章は正しいか誤っているか。正しい場合は○を、誤っている場合は×をつけよ（例：エンブリーには娘と息子がいた○）

- ① エンブリーは『日本』という著作を出版している○
- ② 須恵村は、現在では、あさぎり町の一部である○
- ③ エンブリーは民俗学者・柳田國男と面識がなかった×
- ④ エンブリー・『須恵村』の翻訳作業は戦前から始まっている○
- ⑤ エンブリーの『須恵村』は「よばい」に触れていない×
- ⑥ エラは日本語を理解できなかったが、ジョンは理解できた×
- ⑦ エンブリーは『須恵村』で「はじあい・ハジアイ」という言葉を使用している×
- ⑧ エンブリーは記録用に「須恵村」の写真を多数とった○
- ⑨ エンブリーは政治的配慮から『須恵村』で国防婦人会に触れなかった×
- ⑩ エンブリーは自動車を利用して「須恵村」以外の場所も調査した×

問3 八代市に隣接する市町村名をあげよ（例：五木村）

- ①（山江村）
- ②（球磨村）
- ③（氷川町）
- ④（芦北町）
- ⑤（宇城市）

問4 明治以前に使用された元号名をあげよ（例：大化）

- ①（慶応）
- ②（元治）
- ③（文久）
- ④（万延）
- ⑤（安政）
- ⑥（嘉永）
- ⑦（弘化）
- ⑧（天保）
- ⑨（文政）
- ⑩（文化）

問5 那須良輔の人物画の対象者の名前を書け（例：吉田茂）

- ①（吉川英治）
- ②（黒澤明）
- ③（松本清張）
- ④（大宅壮一）
- ⑤（大江健三郎）
- ⑥（フルシチョフ）
- ⑦（アイゼンハワー）
- ⑧（ケネディ）
- ⑨（ドゴール）
- ⑩（毛沢東）

## 勝清鳥 子守唄

小山勝清

泣いて狂うて野山で死んで  
生れ変つて鳥となる

泣いてわめいて文書くわしは  
生れ変つて鳥となる

おどろがごたるもな野山にすてろ  
死んでこやしになればよい

痛い泣くのも人の世なれば  
山には(にや)話す人もない

山に行きたや草木の中に  
泣くことわめこと風ばかり

痛い泣くと泣く鳥見れば

勝清鳥と名をつけよ

あれきけ勝清鳥がないてどぶ

小説家のなれの果てとよ

勝清鳥が夕空とんで

わが子かあいと啼いて行く

小説家のなれの果てげな勝清鳥は  
文字を数えて木をつゝく

八千八声じやまだなきたらぬ  
勝清鳥は万の声

九万の山々谷々こえて  
勝清鳥が泣いてどぶ

虫もくわなきや木の実もたべぬ  
勝清鳥は露をすう

八千八声のほととぎすよりも  
勝清鳥はなおかなし

たかに追われて勝清鳥が

白い雲間に消えて行く

なかぬ日もある勝清鳥は  
文かくつもりで木をつゝく

岩殿山から晴山かけて  
勝清鳥がないてどぶ

ひとをにくまず争いもせず  
勝清鳥は弱い鳥

勝清鳥はわがまゝ鳥よ  
人のいうこときゝはせぬ

わがまゝ鳥もつばさをとどめ  
一人泣く日があるという

山のぼさつ勝清鳥は  
いとこ同志の仲という

姿見えねど勝清鳥は  
夜も昼もなきとおす

さだまつたねぐらな故勝清鳥は  
夜も夜中もなきとおす

影は見せても姿は見せぬ  
勝清鳥は声ばかり

## 小山勝清論ノート・資料編 ① 「勝清鳥」

小山勝清は、昭和40年(1965年)11月26日にこの世を去った。「勝清鳥」は、翌年6月1日に、小山勝清先生顕彰会が発行した同名の歌集に収録されている。

勝清の甥・池井武士によると、昭和37年12月に、勝清との会話のなかで歌集出版が話題になり、勝清もそれを喜んだことから、池井がその準備をすすめた。しかし、歌集出版前に、勝清は病に倒れてしまった。池井は、個人でひそかに歌集を出版するよりも、多くの人々に読んでみってもらう方がいいと判断し、用意していた原稿をそのまま顕彰会に渡した。

高田宏『われ山に帰る』(昭和57年10月5日 新潮社)

によれば、子守歌「勝清鳥」は、勝清が目をとじ、つぎつぎうたうのを、長男が書きとったもので、節は五木の子守唄である(147頁)。長男とは「小山勝樹」のことで、勝樹作成の原稿を池井が編集したことになる。高田の指摘のとおりだとすれば、この作品は勝清の晩年の作ということになる。池井の甥・上田精一は、生原稿をみており、その字体から、口述筆記の原稿でまちがいない、晩年の作であるという。また池井によれば、「勝清鳥」は勝清の命名による。死期迫るなかで、勝清は「民俗主義的文学論・緒論」を口述・出版するとともに、「勝清鳥」をうたったのであった(前山光則『民俗主義文学論・緒論』について 本誌35号40頁以下も参照)。

『勝清鳥』には、他2篇の歌も収録されている。次号以下で、それらについても掲載する予定である。

(春秋)

問1 球磨地方の自治体名をあげよ (例:人吉市)

- ① ( )
- ② ( )
- ③ ( )
- ④ ( )
- ⑤ ( )
- ⑥ ( )
- ⑦ ( )
- ⑧ ( )
- ⑨ ( )

問2 くまがわ鉄道の駅名をあげよ (例:人吉温泉駅)

- ① ( )
- ② ( )
- ③ ( )
- ④ ( )
- ⑤ ( )
- ⑥ ( )
- ⑦ ( )
- ⑧ ( )
- ⑨ ( )
- ⑩ ( )

問3 次の文章は正しいか、○と×で答えよ (例:日本製紙八代工場がある ○)

- ① 豊臣秀吉は八代に来たことがある
- ② 田村花袋の父の墓は八代にある
- ③ 塩屋町は明治時代にできた
- ④ 写真家・麦島勝は八代の出身である
- ⑤ 八代の特産物はデコボンである
- ⑥ 八代市の市議会は女性議員が多いことで有名である
- ⑦ 江戸時代、一国一城令により八代市には城はなかった
- ⑧ 高田蜜柑は晩白柚のことである
- ⑨ 八代市のい草の生産量は岡山県岡山市について全国2位である
- ⑩ 八代市内には日本競馬協会の馬券売り場がある

問4 現役の女性作家の名前を10人あげよ (例:畠山 恵)

- ① ( )
- ② ( )
- ③ ( )
- ④ ( )
- ⑤ ( )
- ⑥ ( )
- ⑦ ( )
- ⑧ ( )
- ⑨ ( )
- ⑩ ( )

※答え合わせは次号でおこないます。前回の答え合わせは72頁で。

くまがわ春秋歌壇

いもこ短歌会

親分にちぎれるほどに尻尾振るわが宰相の姿あさまし  
 辺野古NO沖繩の民意明確に 本土のわれらいかに応えん  
 ひよどりのけたたましき鳴き声に何ごとならんと耳を澄ませり  
 孫六歳手をつなぐことこばまれて自立の兆しと思えどさびし  
 生きていくかいのありやとふと思ふ孫らに会いてそは消えてゆく  
 初孫の結納の儀に臨みたりかなわぬ手足しばし忘れて  
 天を突く花の兄とぞ白梅は古木なれども凜と花咲く  
 娘の雛を孫娘にと飾り付け大いなる仕事終えし心地す  
 暴政に慣れてはならじと自らを戒めあゆむ氷雨降るなか  
 全国が沖繩のごと闘わばきつと倒せるファッショ政権

柳原 三男

坂本 ケイ

上田 廸子

宮川しのぶ

上田 精一

## 話題を追って

### 人吉市で山頭火の勉強会

定型句に縛られぬ自由律俳句を詠み、「放浪の俳人」とも称される種田山頭火(1882~1940年)の研究や、山頭火ゆかりの



庄内地区との交流について報告する早川会長

場所に顕彰碑や案内板を設置する活動をしている「人吉・球磨 山頭火の会」(早川亘会長)の市民講座が3月9日、人吉市の東西コミセンであった。

今回は「山頭火の映像を見て、そして語ろう」と題して、平成元年にNHKで放送された早坂暁の脚本によるドラマ「山頭火・何でこんなに淋しい風ぞく」の鑑賞を中心に、宮崎県都城市庄内地区での山頭火句碑建立の経緯などの報告があった。

その後のフリートークでは、「都城市庄内地区のような行政を巻き込んだ大きな地域発信力が必要」などの意見が述べられた。

## くまがわ狂句

村上鬼拳

春たけなわ 議会は先イ延ばそうか  
肘枕 どの辺洗いよるどづか  
トントン拍子 ミア中国が恐ろしい  
いつも句 何処から撮られたっていい  
ひつ縮み 「家庭の医学」読み漁り  
無言電話 全神経が耳イなる  
シャツター通り 悲しゅうなうたひターン  
寒いのに 風邪ばし釣つて来らすどづ  
逃げるが勝ち 居れば会長受けんなん  
変な温泉 効能に「失恋」である

【むらかみ・きけん/人吉市】

## すべての人を自分の親だと思って...



3月24日(日)は  
龍生園「桜まつり」  
ぜひお出かけ下さい。

社会福祉法人 天雲会

# 龍生園

〒868-0086 人吉市下原田町瓜生田1057-9  
施設部門 ☎0966-22-6621 FAX 0966-22-6622  
在宅部門 ☎0966-22-2141 FAX 0966-22-2183  
URL: www.ryuseien.jp  
E-mail: tenukai-daihyou@ryuseien.jp



TAKEDA Eye Clinic

## たけだ眼科クリニック

院長 竹田 憲司

人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの

## アイウェア榎

(たけだ眼科ビル内) ☎0966-23-3097

デイサービスセンター

ケアプラン作成所いずみ  
(居宅介護支援事業所)

## いずみ

協力医療機関 たけだ眼科クリニック

人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307

## インフォメーション

### 【開催中】

- ▽「人吉球磨は、ひなまつり」(3月24日、郡市帯)
- 3月21日(木・春分の日)
- ▽相良三十三観音めぐり「春の斉開帳」(球磨郡人吉市35札所)
- ▽人吉市大畑町恵比須神社大祭「ひゅっはぎ市」(同町公民館駐車場)
- 3月22日(金)
- ▽観光列車サミット in 人吉球磨(23日、JR人吉駅周辺)
- 3月23日(土)
- ▽くまて(ま)り2019春(24日、人吉駅〜湯前駅間)
- ▽熊本県内装飾古墳「斉公開」大村横穴群(人吉市)・京ヶ峰横穴群(錦町)
- 3月24日(日)
- ▽「人吉球磨は、ひなまつり」エンディングセレモニー(ま)川下り人吉発船場)
- ▽ひとよし〜くま市民劇場例会「前進座裏長屋騒動記」(人吉市カルチャーパレス)
- ▽龍生園「桜まつり」(人吉市下原田町)
- 3月31日(日)
- ▽海棠まつり(人吉市下原田町・石水寺境内)
- ▽第4回さかもと菜の花フェスタ2019(坂本町帯)

## 編集後記

値上げラッシュの春である。今月号の巻頭でお知らせした通り、ペーシ数を減らしての発行となった。心苦しい限りであるが、読者の皆様のご理解をお願いする次第である。★本誌で度々取り上げているエンブリー夫妻の「須恵村」から、夫妻に任えたお手伝いさんである奥田モモエさんの訃報が届いた。以前から交流のあった田中一彦さんの報告「エンブリー夫妻のお手伝いさん 歴史の生き証人・奥田モモエさんを悼む」(12頁)は、歴史の生き証人を失った悲しみに溢れ、そしてエンブリー夫妻の実像にせまる意味で貴重な記録となっている。★自分が卒業した学校を時折、通りかかることがある。甘酸っぱい思い出と共に友の顔を思い出し懐かしくなるが、その母校が消えたとしたらどうだろう。自分の一部が欠落していく感覚になるのだろう。今月号の特集「学校が消える」(2頁)は、そのことを如実に伝えていて辛い、季節は春。花の下で昔話などするのも悪くない。(ま)

〒868-0015  
熊本県人吉市下城本町1436-4の3号  
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部  
info@hiyoshi.co.jp  
電話・ファックス 0969・23・3759

月に願いを。

sengetsu

Japanese Traditional Rice Shochu  
SENGETSU

織月城(人吉城跡)にて撮影

織月酒造株式会社 SENGETSU SHUZO CO., LTD.  
〒868-0052 熊本県人吉市新町一番地 TEL.0966-22-3207  
新酒は20歳を過ぎてから。飲酒運転は法律で禁止されています。  
妊婦中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発達に影響を及ぼすおそれがあります。 http://www.sengetsu.co.jp/

### 本誌の 取扱店舗

■清藤書店 ■ブックスミスミ ■明屋書店 (錦店・免田店・多良木駅店)  
■道の駅さかもと ■TSUTAYA 八代松江店